

仙台市文化財調査報告書第 459 集

仙台平野の遺跡群27

平成 28 年度個人住宅他 国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

南小泉遺跡第 79 次、高田 A 遺跡第 6 次、今泉遺跡第 14 次、
大野田官衙遺跡第 20 次・第 21 次

2017 年 3 月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。
仙台市内には現在約 760 箇所 の遺跡や指定文化財が確認されており、このうち約 610 箇所が一般に遺跡と呼ばれている地中に眠る埋蔵文化財包蔵地です。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災より 6 年が経ち、復興・創生期間 1 年目を迎えておりますが、個人住宅等の建築に伴う発掘届の件数や発掘調査の件数は、平成 23 年度以降、震災前を上回る状況が継続しております。仙台市教育委員会といたしましては、復旧・復興事業との調整を図りながら、埋蔵文化財の保護と啓発に日々務めているところです。

本報告書には、個人住宅建築に伴って平成 27 ～ 28 年度に発掘調査を実施した、南小泉遺跡第 79 次調査、高田 A 遺跡第 6 次調査、今泉遺跡第 14 次調査、大野田官衙遺跡第 20 次、第 21 次調査の調査結果を収録しています。

文化財は、地域の歴史を伝えるために将来へ守るべき大切な財産です。先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へと継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な役割であると思います。地域が育んだ文化を語る上で歴史や文化資源がその根底をなしているからです。つきましては、本報告書が学術研究のみならず学校教育や生涯学習などの文化活動に寄与し、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただいた多くの方々に心より深く感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

仙台市教育委員会
教育長 大越 裕光

例 言

1. 本書は、平成 28 年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書であり、南小泉遺跡第 79 次、高田 A 遺跡第 6 次、今泉遺跡第 14 次、大野田官衙遺跡第 20 次、第 21 次の各発掘調査報告を合本にしたものである。

本書の内容は、すでに公開されている遺跡見学会資料や、各種の発表会資料に優先する。

2. 本書の本文執筆・挿図・表・写真図版の作成等については以下のように分担し、編集は及川謙作が行った。
第 1 章・第 2 章第 1 節・第 3 節・第 3 章第 1 節・第 4 章－及川謙作 第 2 章第 2 節・第 3 章第 2 節－庄子裕美
遺物の基礎整理～実測図作成－佐藤洋、向田整理室作業員

遺物図・遺構図デジタルトレース－向田整理室作業員

遺物観察表作成－佐藤洋

遺構註記表作成－各担当職員

遺物写真撮影・図版作成－及川謙作、向田整理室作業員

遺構写真図版作成－及川謙作

3. 出土遺物の鑑定は、佐藤洋が行った。

4. 本書に係る出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 文中および図中の方位は真北を示している。

2. 図中の標高を測定した基準点のデータは平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以前に測定したものをそのまま使用している。

3. 遺構の略称は以下の通りで、遺構番号は各調査別の通しNoである。

SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SE：井戸跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構

P：ピット

4. 遺物の略称は以下のとおりである。

A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器

E：須恵器 F：丸瓦 G：平瓦 H：その他の瓦 I：陶器 J：磁器 K：石器・石製品

L：木製品 N：金属製品 P：土製品

5. 土色については、「新版標準土色帳」（小山・竹原 1999）を使用した。

6. 遺物実測図中の網点は黒色処理を示している。

7. 遺物観察表の（ ）がつけた数値は図上復元した推定値及び残存値である。

8. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田 1980）はこれまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田 a 火山灰（To - a）」と考えられている。降下年代は西暦 915 年と推定されている。

庄子貞夫・山田一郎 1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城跡・昭和 54 年度発掘調査概報』

宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡 第 1～3 次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第 241 集

小口雅史 2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田 a と白頭山（長白山）を中心に」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

第1章 調査計画と実績	1
I 調査体制 II 調査計画 III 調査実績 IV 調査方法	1
第2章 若林区内の調査	3
第1節 南小泉遺跡の調査	3
I 遺跡の概要	3
II 第79次調査	3
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第2節 高田 A 遺跡の調査	10
I 遺跡の概要	10
II 第6次調査	10
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第3節 今泉遺跡の調査	18
I 遺跡の概要	18
II 第14次調査	18
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第3章 太白区の調査	24
第1節 大野田官衙遺跡の調査	24
I 遺跡の概要	24
II 第20次調査	24
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
III 第21次調査	27
1. 調査要項 3. 基本層序 5. まとめ	
2. 調査に至る経緯と調査方法 4. 発見遺構と出土遺物	
第4章 郡山遺跡の調査	30
第5章 総括	31

挿図目次

第1図 平成27・28年度調査地点位置図	2
第2図 南小泉遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第3図 南小泉遺跡第79次調査区および周辺調査区位置図	4
第4図 南小泉遺跡第79次調査区設定図	4
第5図 南小泉遺跡第79次調査区平・断面図	5

第 6 図	南小泉遺跡第 79 次 SK1 土坑出土遺物 (1)	6
第 7 図	南小泉遺跡第 79 次調査区 SK1 (2)・P5 出土遺物	7
第 8 図	高田 A 遺跡の位置と周辺の遺跡	10
第 9 図	高田 A 遺跡第 6 次調査区および周辺調査区位置図	11
第 10 図	高田 A 遺跡第 6 次調査区設定図	11
第 11 図	高田 A 遺跡第 6 次調査区平・断面図	12
第 12 図	高田 A 遺跡第 6 次調査出土遺物	13
第 13 図	高田 A 遺跡第 6 次調査区および周辺調査区	14
第 14 図	今泉遺跡の位置と周辺の遺跡	18
第 15 図	今泉遺跡第 14 次調査区および周辺調査区位置図	19
第 16 図	今泉遺跡第 14 次調査区設定図	19
第 17 図	今泉遺跡第 14 次調査区平・断面図	20
第 18 図	今泉遺跡第 14 次調査出土遺物	21
第 19 図	今泉遺跡第 14 次調査区とその周辺の遺構	22
第 20 図	大野田官衙遺跡の位置と周辺の遺跡	24
第 21 図	大野田官衙遺跡第 20・21 次調査区位置図	25
第 22 図	大野田官衙遺跡第 20 次調査区設定図	25
第 23 図	大野田官衙遺跡第 20 次調査区平・断面図	26
第 24 図	大野田官衙遺跡第 21 次調査区設定図	27
第 25 図	大野田官衙遺跡第 21 次調査区平・断面図	28
第 26 図	郡山遺跡調査区位置図	30

挿表目次

表 I	平成 27・28 年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧	2
-----	---------------------------------	---

写真図版目次

写真図版 1	南小泉遺跡第 79 次調査・出土遺物 (1)	8
写真図版 2	南小泉遺跡第 79 次調査区出土遺物 (2)	9
写真図版 3	高田 A 遺跡第 6 次調査 (1)	15
写真図版 4	高田 A 遺跡第 6 次調査 (2)	16
写真図版 5	高田 A 遺跡第 6 次調査 (3)・出土遺物	17
写真図版 6	今泉遺跡第 14 次調査・出土遺物	23
写真図版 7	大野田官衙遺跡第 20 次調査	26
写真図版 8	大野田官衙遺跡第 21 次調査	29

第1章 調査計画と実績

第1節 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会
調査担当 仙台市教育局生涯学習部文化財課

平成27年度

【文化財課】	課長	長島栄一				
【調査調整係】	係長	荒井格	主査	平間亮輔		
	主任	鈴木隆				
	主事	庄子裕美	五十嵐愛	小林航		
	文化財教諭	早坂純一	吉田真太郎	笹原惇	佐藤慶一	
	専門員	佐藤洋				
【整備活用係】	係長	斎野裕彦				
	主任	斎藤克己				
	主事	及川謙作				
	文化財教諭	千葉靖彦	小山紘明	高橋和也		
	専門員	木村浩二				

平成28年度

【文化財課】	課長	長島栄一				
【調査調整係】	係長	荒井格	主査	平間亮輔		
	主任	鈴木隆				
	主事	及川謙作	庄子裕美	高橋純平	小林航	
	文化財教諭	吉田真太郎	笹原惇	佐藤慶一	及川基	
	専門員	佐藤洋				
【整備活用係】	係長	斎野裕彦				
	主任	小野寺啓次				
	主事	五十嵐愛				
	文化財教諭	小山紘明	千葉昂太	高橋和也		
	専門員	木村浩二				

第2節 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、「個人専用住宅補助事業費」として、総額7,463千円（このうち補助金額3,731千円）の予算で27件の調査を計画した。

第3節 調査実績

平成27～28年度にかけて（平成27年12月19日～平成29年1月11日）実施された調査は第1表のとおりで、計26件である。このうち本書に収録したのは平成27年度分4件、平成28年度分1件の計5件である。

第1章 調査計画と実績

平成27年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧（平成27年12月19日～平成28年3月31日） 調査面積 116.4㎡

	調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
1	H27-53	南小泉遺跡	若林区遠見塚2丁目	56.3	12.0	2月15日～18日	土坑1、井戸跡1	H27-101-562	第79次
2	H27-63	南小泉遺跡	若林区南小泉4丁目	57.5	9.0	1月27日	溝跡1	H27-101-577	-
3	H27-64	今泉遺跡	若林区今泉2丁目	78.7	12.0	2月2日～5日	土坑2、井戸跡1、溝跡1、ピット8	H27-101-565	第14次
4	H27-66	大野田官衙遺跡	太白区大野田字袋前	65.8	21.4	2月3日	溝跡1	H27-101-514	第20次
5	H27-73	南小泉隣接地	若林区一本杉町	144.1	10.0	3月2日	遺構・遺物なし	H27-103-156	-
6	H27-74	棟林C遺跡 および隣接地	青葉区愛子東1丁目	360.4	16.0	2月29日	遺構・遺物なし	H27-101-625	-
7	H27-79	五本松窯跡	青葉区台原4丁目	170.0	36.0	3月25日	遺構・遺物なし	H27-103-154	-

平成28年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧（平成28年4月1日～平成29年3月1日） 調査面積 226.8㎡

	調査No.	遺跡名	所在地	対象面積	調査面積	調査期間	遺構・遺物	届出等No.	報告書
1	H28-6	三神峯遺跡	太白区西多賀1丁目	82.9	12.0	4月22日	遺構・遺物なし	H27-101-844	-
2	H28-10	鍛冶屋敷前遺跡	太白区富沢字鍛冶屋敷前	130.4	18.0	5月12日	ピット1・遺物なし	H28-101-024	-
3	H28-14	南小泉遺跡	若林区古城3丁目	59.8	9.0	5月23日	遺構・遺物なし	H27-101-684	-
4	H28-17	鍛冶屋敷前遺跡	太白区富沢字鍛冶屋敷前	72.0	18.0	5月30日	遺構・遺物なし	H28-101-043	-
5	H28-18	堤町瓦窯跡	青葉区堤町2丁目	112.6	10.0	6月1日	遺構・遺物なし	H28-101-044	-
6	H28-21	長町南遺跡	太白区長町南2丁目	76.0	12.3	6月6日	遺構なし・遺物2点	H28-101-052	-
7	H28-26	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字鴻巣	49.0	16.0	6月20～23日	土坑1	H28-101-123	-
8	H28-28	大野田官衙遺跡	太白区大野田5丁目	76.5	10.0	6月27日	小溝2・ピット1	H28-101-128	第21次
9	H28-33	伊古田B遺跡	太白区大野田字イコタ	120.9	12.0	7月7日～8日	遺構・遺物なし	H28-101-171	-
10	H28-34	大野田古墳群	太白区大野田5丁目	70.4	12.0	7月11日	ピット6	H28-101-169	-
11	H28-35	今泉遺跡	若林区今泉2丁目	62.1	12.0	7月11日	土坑1	H28-101-236	-
12	H28-39	泥畑遺跡	泉区福岡字下泥畑	117.0	0.5	8月9日	遺構・遺物なし	H28-101-257	-
13	H28-45	南小泉遺跡	若林区古城3丁目	63.7	8.0	9月5日	河川跡・遺物なし	H28-101-256	-
14	H28-47	後河原遺跡	太白区中町字前沖	54.7	12.0	9月12日	溝跡2・遺物僅少	H28-101-316	-
15	H28-52	鴻ノ巣遺跡	宮城野区岩切字鴻巣	77.0	12.0	10月5日	遺構・遺物なし	H28-101-390	-
16	H28-64	南小泉遺跡	若林区一本杉町	58.0	8.0	11月7日	溝跡1・性格不明遺構1	H28-101-491	-
17	H28-77	中在家南遺跡	若林区荒井西土地区画整理地内	105.2	30.0	1月12日～31日	河川跡・弥生土器、土師器、石器	H28-101-539	平成29年度
18	H28-82	陸奥国分尼寺跡	宮城野区宮千代1丁目	45.3	6.0	3月1日	遺構・遺物なし	H28-101-577	-
19	H28-86	今泉遺跡	若林区今泉2丁目	57.2	9.0	3月1日	堀跡	H28-101-743	平成29年度

表I 平成27・28年度 個人住宅に伴う発掘調査一覧



第1図 平成27・28年度調査地点位置図（国土地理院地図を一部改変）

第2章 若林区内の調査

第1節 南小泉遺跡

I 遺跡の概要

南小泉遺跡は、仙台市若林区南小泉、古城、遠見塚、霞目に所在する。JR 仙台駅から南東約 3.5km、広瀬川と名取川の合流地点より北へ約 3km の場所に位置し、「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野の自然堤防上に立地する。標高は、遺跡西側で約 13m、東側で約 7.5m であり、緩やかに東側に向かって低くなっている。遺跡の範囲は東西約 2km、南北約 1km に及んでおり、仙台市内でも最大級の規模をもつ遺跡である。

遺跡内には遠見塚古墳を含み、また、西部では若林城跡、北西部では養種園遺跡と接している。周辺には法領塚古墳、蛇塚古墳、猫塚古墳などが分布している。本遺跡は、これまでに 80 次を超える調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に古墳時代中期（南小泉式ないし引田式期）では、60 軒以上の竪穴住居の検出例があり、仙台平野において有数の集落であったものと考えられる。

II 第79次調査

1. 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01021)
調査地点	若林区遠見塚 2 丁目 321 - 9、 321 - 20、324 - 15
調査期間	平成 28 年 2 月 15 日～2 月 18 日
調査対象面積	建築面積 56.31㎡
調査面積	12㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係
担当職員	文化財教諭 笹原 惇 佐藤 慶一



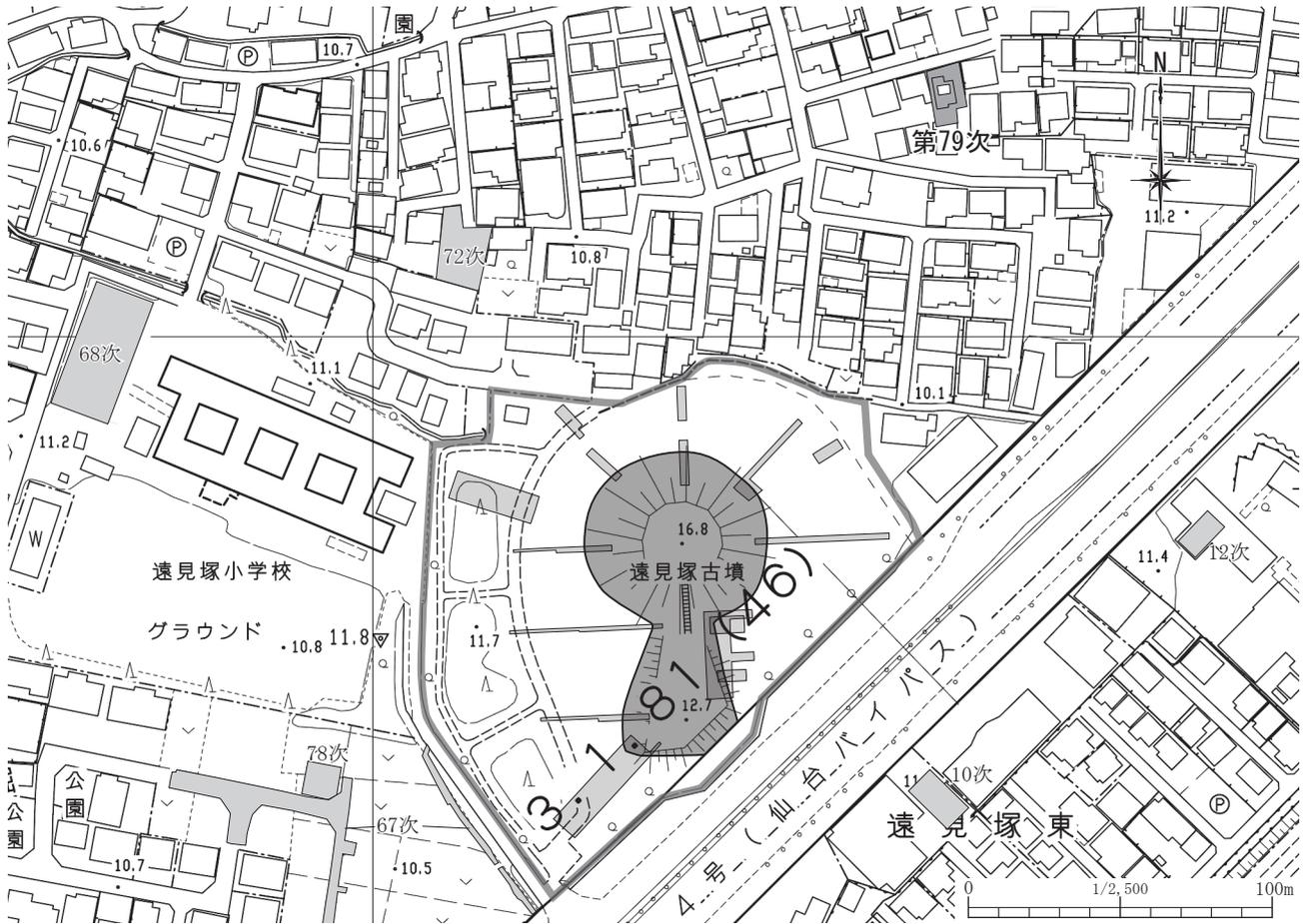
第2図 南小泉遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成 28 年 1 月 4 日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成 28 年 1 月 13 日付 H27 教生文第 101-562 号で通知）に基づき、平成 28 年 2 月 15 日～18 日に実施した。

建築範囲内に東西 4.0 × 南北 3.0m の調査区を設定し、重機により盛土および攪乱、基本層 I 層、II 層を掘削した後、基本層 III 層をやや掘り下げた面 (GL-0.85m) で遺構検出作業を実施し、土坑 1 基、井戸跡 1 基、ピット 7 基を確認した。なお井戸跡については安全面を考慮し、遺構検出面から約 70cm の深さまでの掘削にとどめている。

遺構の掘削後、平面図 (S=1/40)、調査区西・東壁の土層断面図 (S=1/20) を作成し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。埋め戻しは 2 月 18 日に重機で締め固めを行いながら実施した。



第3図 南小泉遺跡第79次調査区および周辺調査区位置図

3. 基本層序

調査区内の盛土の厚さは約50cmで、その下に基本層を3層確認した。今回の遺構検出面であるⅢ層上面までの深度は70cmである。

I層：暗褐色粘土質シルト。旧耕作土。層厚は約10～20cmである。

II層：暗褐色粘土質シルト。暗褐色砂質シルトを多量に含む。層厚は約10cmである。

Ⅲ層：褐色粘土質シルト。上部に暗褐色粘土質シルトを斑状に含む。

4. 発見遺構と出土遺物

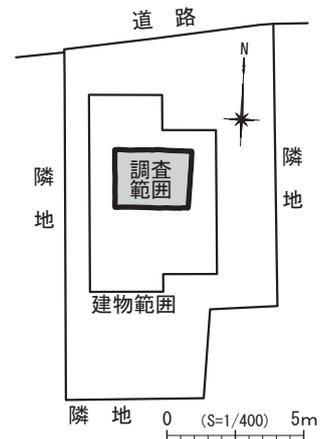
土坑1基、井戸跡1基、ピット7基を確認した。また基本層および各遺構と遺構検出面から弥生土器、土師器、陶器、打製石器、石製模造品などの遺物が出土している。

(1) 土坑

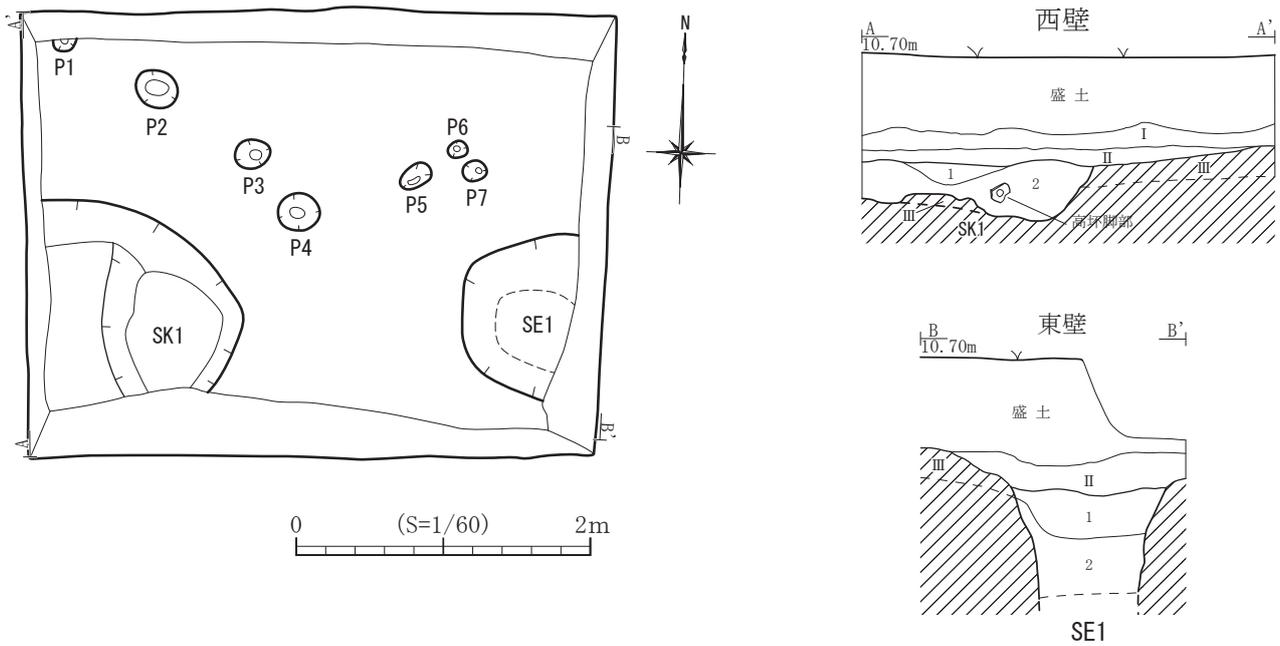
SK1 土坑

調査区の西側で北東部分のみを確認した。平面形は不整形で、検出規模は東西幅が1.6m、南北幅が約2.1mで、深さは20cmである。堆積土は2層に細分され、暗褐色、もしくは褐色の粘土質シルトであり、褐色粘土質シルトブロックを含む。遺構の底面は平坦ではなく、東側が窪む。

出土遺物は土師器を中心に、弥生土器、剥片石器、石製品などが出土している。そのうち土師器13点、弥生土器4点、打製石器1点、砥石1点、剣形の石製模造品1点を図化した。土師器の器種は坏、高坏、小型の壺、甕で、5世紀の南小泉式の器種組成を示している。なお第6図12の土師器甕の底部外面には、12個の刳圧痕が認められた。



第4図 南小泉遺跡第79次調査区設定図



	層位	色調	土質	備考
基本層	I	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	旧耕作土
	II	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルト極小ブロックを多量に含む 褐色粘土質シルトブロックを極少量含む
	III	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	上部に暗褐色粘土質シルトを斑状に含む
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト小ブロックを含む
	2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	底部に褐色粘土質シルトをブロック状に含む 酸化鉄粒を多量に含む
SE1	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルトを一部に層状に含む 酸化鉄粒を多量に含む

第5図 南小泉遺跡第79次調査区平・断面図

石器・石製品には、砥石（第6図13）、石製模造品（剣形、第6図14）、打製石器（二次加工痕あり、第6図15）が1点ずつ出土した。

弥生土器片は平行沈線文のある土器（壺？）（第7図1）、地文に撚糸文（第7図2）、縄文（第7図3）をもつ土器である。このほかにも細片が9点出土した（写真2-17）。細片が多いことから特徴をつかみにくいのが、これらの土器は、弥生時代中期（榊形囲式）の土器群であろうと考えられる。

(2) 井戸跡

SE1 井戸跡

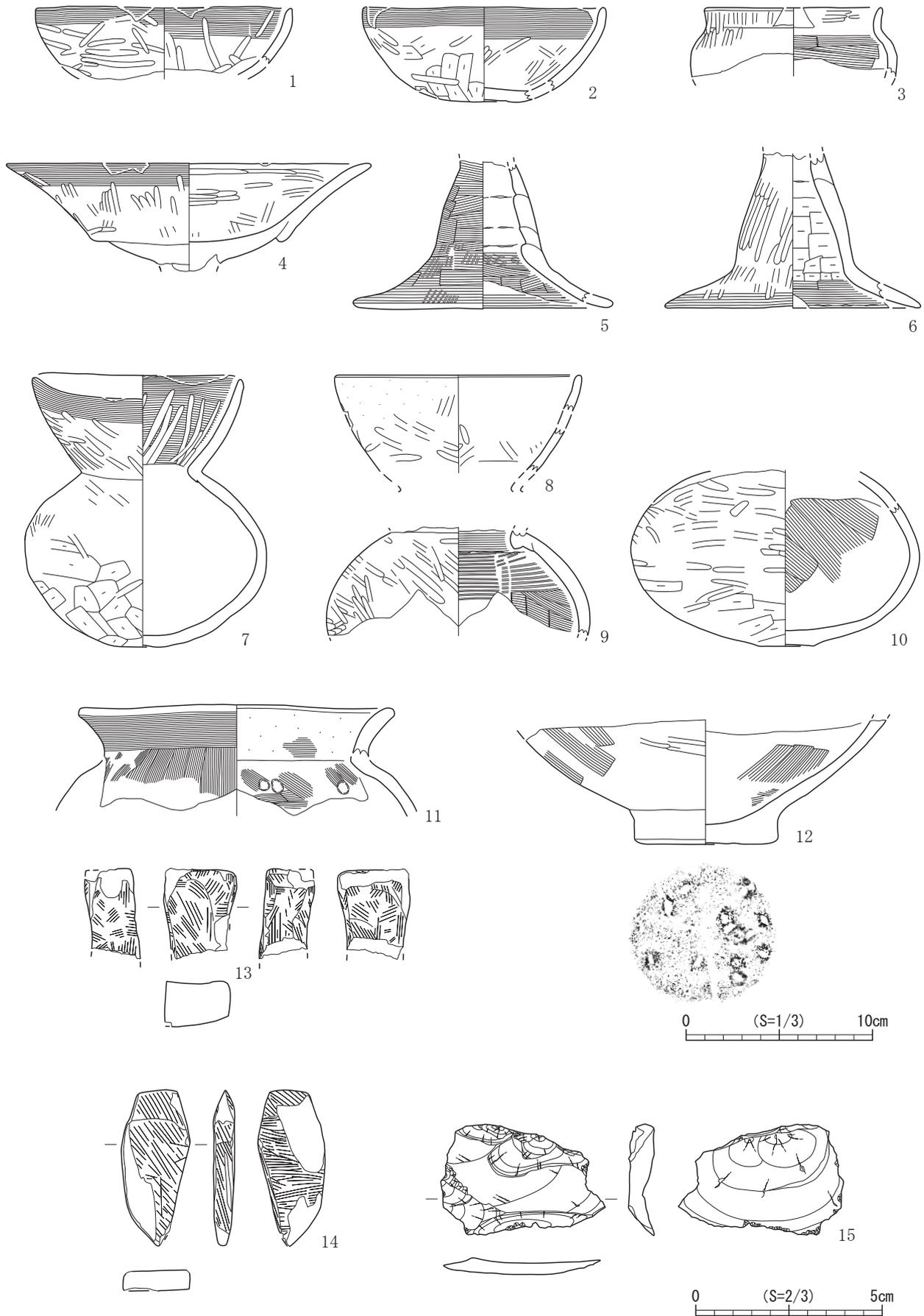
調査区の東側で西半部のみを確認した。平面形は円形を呈するものと思われ、南北幅は1.0mである。GL-1.6mの深さまで掘り込んだが、安全面を考慮し底面までの掘り下げは行わなかったため、底面までの深さは不明である。遺構の形状から井戸跡と推定した。

小破片であるため図示できなかったが、堆積土中から17世紀後半と考えられる肥前産陶器の碗が1点出土していることから遺構の年代は17世紀後半であると考えられる。

(3) ピット

調査区から7基のピットが検出された。直径は10～30cmで、断面形状はU字形を呈し、深さは10～20cmである。堆積土はいずれも暗褐色粘土質シルトで、一部のピットには炭化物や褐色の粘土質シルトブロックが混入する。建物跡等を構成する組み合わせは確認されなかった。

P5から弥生土器が1点（第7図4）出土している。



第6図 南小泉遺跡第79次SK1土坑出土遺物(1)



掲載 番号	登録 番号	出土 遺構	種別	器種	口径・ 幅 (cm)	器高・ 長 (cm)	底径・ 厚 (cm)	外面	内面	特徴・備考	写真 図版
6-1	C-1	SK1	非ロクロ土師器	坏	(13.8)	(3.9)	—	ヨコナデ→ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラナデ→ヘラミガキ		1-7-1
6-2	C-2	SK1	非ロクロ土師器	坏	(12.8)	5.1	—	口縁：ヨコナデ 体～底：ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部：ヨコナデ 体部：ヘラナデ→ヘラミガキ	内面下地にヘラナデ	1-7-2
6-3	C-8	SK1	非ロクロ土師器	坏 or 短頸壺	(9.4)	(3.7)	—	ヘラミガキ	口縁部：ヘラミガキ 体部：ヘラナデ		2-1
6-4	C-3	SK1	非ロクロ土師器	高坏	(19.3)	(5.8)	—	口縁：ヨコナデ 体部：ミガキ	体部：ミガキ		2-3
6-5	C-4	SK1	非ロクロ土師器	高坏	—	(8.0)	(14.0)	ハケメ→ヘラナデ→ヨコナデ	ハケメ→ヘラナデ→ヨコナデ 胴部：ナデ	白針含む	1-7-3
6-6	C-5	SK1	非ロクロ土師器	高坏	—	(8.3)	(13.8)	ヨコナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラナデ→ヨコナデ		1-7-4
6-7	C-6	SK1	非ロクロ土師器	壺 (小型)	11.3	14.8	2.2	口縁：ヨコナデ→ヘラミガキ 体部：ヘラケズリ→ミガキ	口縁部：ヨコナデ→ヘラミガキ→ ミガキ 体部：ナデ?	ゆがみあり	2-5
6-8	C-7	SK1	非ロクロ土師器	壺 (小型)	(13.0)	(5.2)	—	口縁～体部：ミガキ マメツ	口縁部～体部：ミガキ マメツ		2-9
6-9	C-9	SK1	非ロクロ土師器	壺 (小型)	—	(5.3)	—	ヘラミガキ	ヘラナデ→ハケメ	口縁・体部下半欠損	2-2
6-10	C-10	SK1	非ロクロ土師器	壺 (小型)	9.5	(9.4)	3	ミガキ ヘラケズリ ヘラケズリ →ヘラミガキ	ヘラナデ	口縁部欠損	2-4
6-11	C-11	SK1	非ロクロ土師器	甕 (球胴甕)	(16.5)	(6.0)	—	口縁～体部：ヨコナデ→ヘラナデ	口縁部～体部：ヨコナデ 指ナデ 指跡 ヘラナデ	指ナデ・指跡あり	2-6
6-12	C-12	SK1	非ロクロ土師器	甕 (球胴甕)	—	(6.7)	(7.5)	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ	底部粉痕 11 個	2-7
6-13	K-2	SK1	石製品	砥石	(3.9)	(4.9)	(2.5)			4 面使用 折れて端部 残存	2-11
6-14	K-3	SK1	石製品	石製模造品 (剣形)	1.8	4.2	0.55	研磨	研磨	(緑泥片岩?) 先端 の一部欠 孔なし	2-13
6-15	K-1	SK1	打製石器	剝片	4.5	3.0	0.7			流紋岩	2-12
7-1	B-1	SK1	弥生土器	壺?	—	(2.2)	—	沈線文 平行沈線文			2-14
7-2	B-2	SK1	弥生土器	甕?	—	(2.3)	—	縄文 マメツ	マメツ		2-15
7-3	B-3	SK1	弥生土器	甕	—	(2.7)	—	縄文 LR			2-16
7-4	B-5	P5	弥生土器	鉢	—	(3.9)	(5.4)	沈線文ヨコ3本タテ4本 雷文風 の文様か	研磨	外面剥落著しい	2-18
写真 のみ	C-13	SK1	非ロクロ土師器	甕							2-8
	I-1	SE1	陶器	碗						肥前 透明釉碗 17C 後半か?	2-10
	B-4	SK1	弥生土器	—						集合9点	2-17

第7図 南小泉遺跡第79次調査区SK1(2)・P5出土遺物

5. まとめ

今回の調査地点は、南小泉遺跡の北東側、遠見塚古墳の北側に位置し、南小泉遺跡第10・12・67・78次調査区の北側、第68・72次調査区の東側に位置する。これらの調査においても弥生土器や、古墳時代中期の遺物や遺構が、また中世から近世にかけての遺構が検出されている。今回の調査では土坑1基と井戸跡1基が見つかり、土坑からは多数の古墳時代中期の土師器と、剣形の石製模造品などが出土したが、これは前述した本調査区周辺の調査地点でこれまでに見つかった遺構、遺物の様相とも類似し、当該期の遺構群がさらに遺跡の北東側に広がる事が判明した。

また井戸跡から17世紀後半の陶器が出土したことから近世の遺構であると考えられ、今回の調査地点の周囲においても近世の遺構がさらに存在することが判明した。

引用・参考文献

仙台市教育委員会 1981 『遠見塚古墳 昭和55年度環境整備予備調査概報』仙台市文化財調査報告書第26集
 仙台市教育委員会 2014 『南小泉遺跡 - 第67次発掘調査報告書-』仙台市文化財調査報告書第419集
 仙台市教育委員会 2016 『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第448集
 仙台市教育委員会 2016 『仙台平野の遺跡群26』仙台市文化財調査報告書第449集



1. 遺構検出状況（北から）



2. 遺構完掘状況（北から）



3. 調査区西壁土層断面（東から）



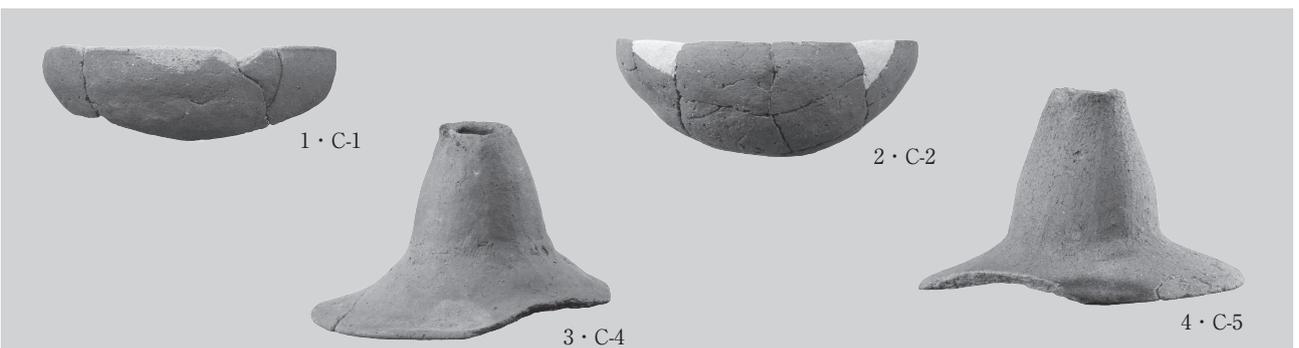
4. SE1 井戸跡土層断面（西から）



5. SK1 土坑遺物 (C-6) 出土状況（東から）

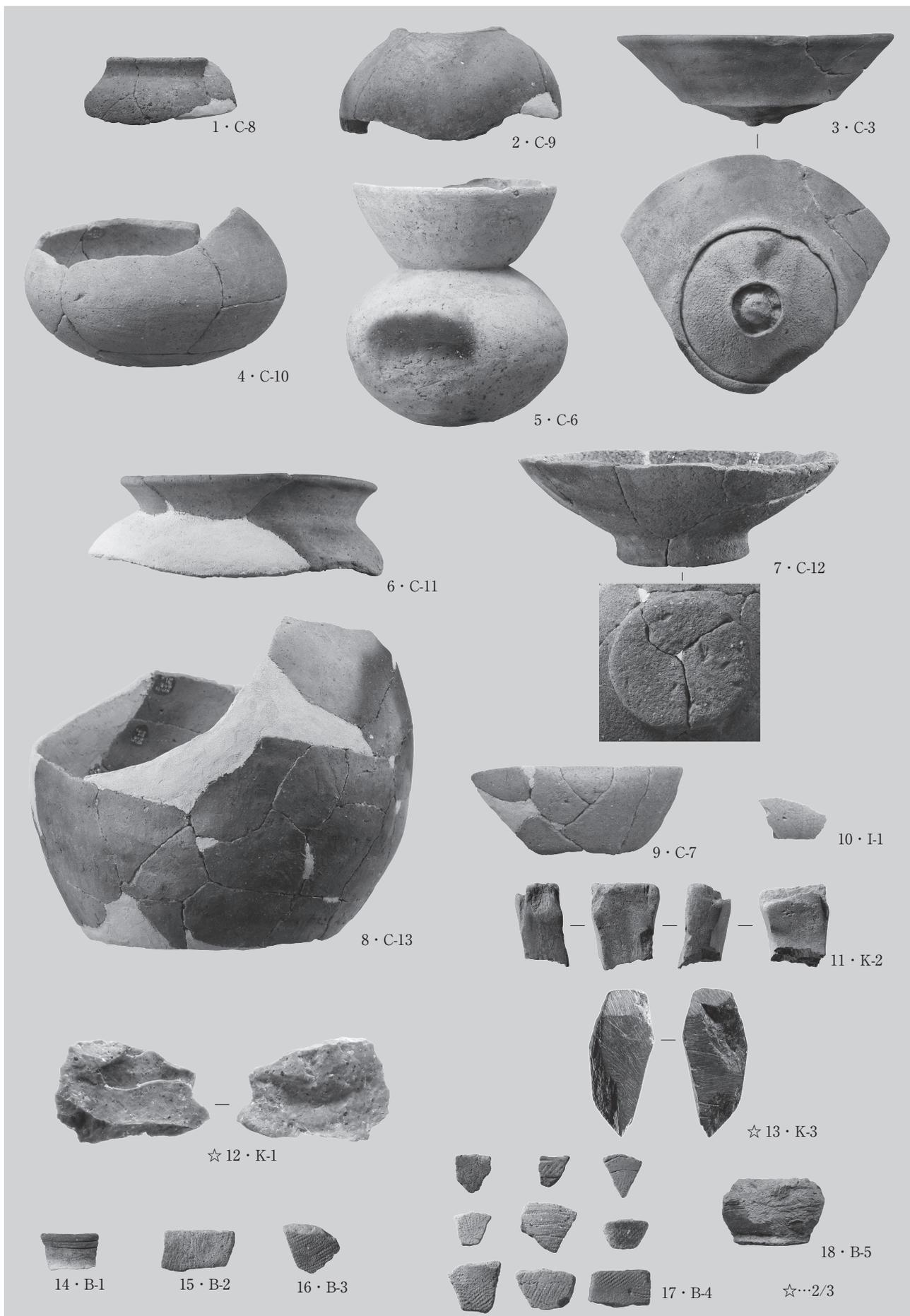


6. SK1 土坑遺物 (C-4) 出土状況（北から）



7. 出土遺物 (1)

写真図版 1 南小泉遺跡第 79 次調査・出土遺物 (1)



写真図版2 南小泉遺跡第79次調査出土遺物(2)

第2節 高田A遺跡

I. 遺跡の概要

高田A遺跡は仙台市若林区上飯田3丁目に所在する。JR 仙台駅から南東約6.6kmの、広瀬川と名取川によって形成された標高2～4mの自然堤防上に立地する。本遺跡では、平成5年に1次調査が実施されて以降、これまでに5次の調査が行われており、弥生時代から平安時代頃の河川跡と溝跡、土坑、ピットなどが検出され、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、石製品などが出土している。

本遺跡の南側にある高田B遺跡では河川跡や縄文時代後期の竪穴住居跡、弥生時代中期の水田跡や遺物包含層、中世の建物跡や溝跡、道路跡などが検出されている。河川跡からは弥生時代中期の弥生土器や石器、木製品、古墳時代前期と中期の土師器や須恵器、木製品が出土しており、弥生土器は多種多様であり、編年研究において重要な資料となっている。

II. 第6次調査

1. 調査要項

遺跡名	高田A遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01256)
調査地点	仙台市若林区上飯田3丁目 448-18
調査期間	平成27年6月4日 ～6月9日
調査対象面積	建築面積 77.84㎡
調査面積	16㎡
調査原因	個人住宅の建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部 文化財課調査調整係
担当職員	主事 庄子裕美 文化財教諭 笹原惇



第8図 高田A遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は平成27年4月24日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成27年5月12日付 H27 教生文第 101-95 号で通知)に基づき実施した。調査は平成27年6月4日に着手した。建築範囲内に4×4mの調査区を設定し、重機により盛土、基本層I～III層(畑の耕作土)の掘削を行い、GL-0.9mで、基本層IV層を検出し遺構確認を行った。その結果、溝4条、土坑2基を検出した。また適宜、平面図(S=1/40)、断面図(S=1/20)を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

調査区は複数回に分けて転圧をかけながら埋戻し、6月9日にすべての調査を終了した。

3. 基本層序

宅地造成に伴う盛土の下層で4層の基本層を確認した。このうち、I～III層は畑の耕作土である。今回の遺構検出面であるIV層上面までの深度は90cmである。

I層：宅地化前の畑の耕作土。褐色のシルトで、層厚は20～35cmである。

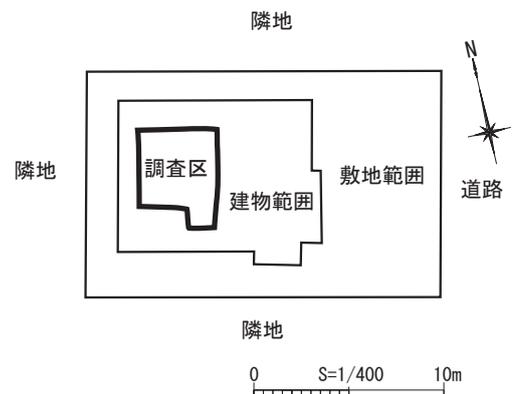


第9図 高田A遺跡第6次調査区および周辺調査区位置図

- II層：にぶい黄褐色のシルトで、層厚は10～30cmである。炭化粒と砂、酸化鉄ブロックを少量含む。
- III層：黒褐色のシルトで、層厚は0～15cmである。IV層シルト小粒を少量含む。層下面に凹凸が確認される。
- IV層：黄褐色の粘土質シルトで、暗褐色シルト粒を微量に含む。今回の調査の遺構検出面である。

4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査では、溝跡4条、土坑2基を検出した。出土遺物は弥生土器片、土師器片、石器、金属製品などである。



第10図 高田A遺跡第6次調査区設定図

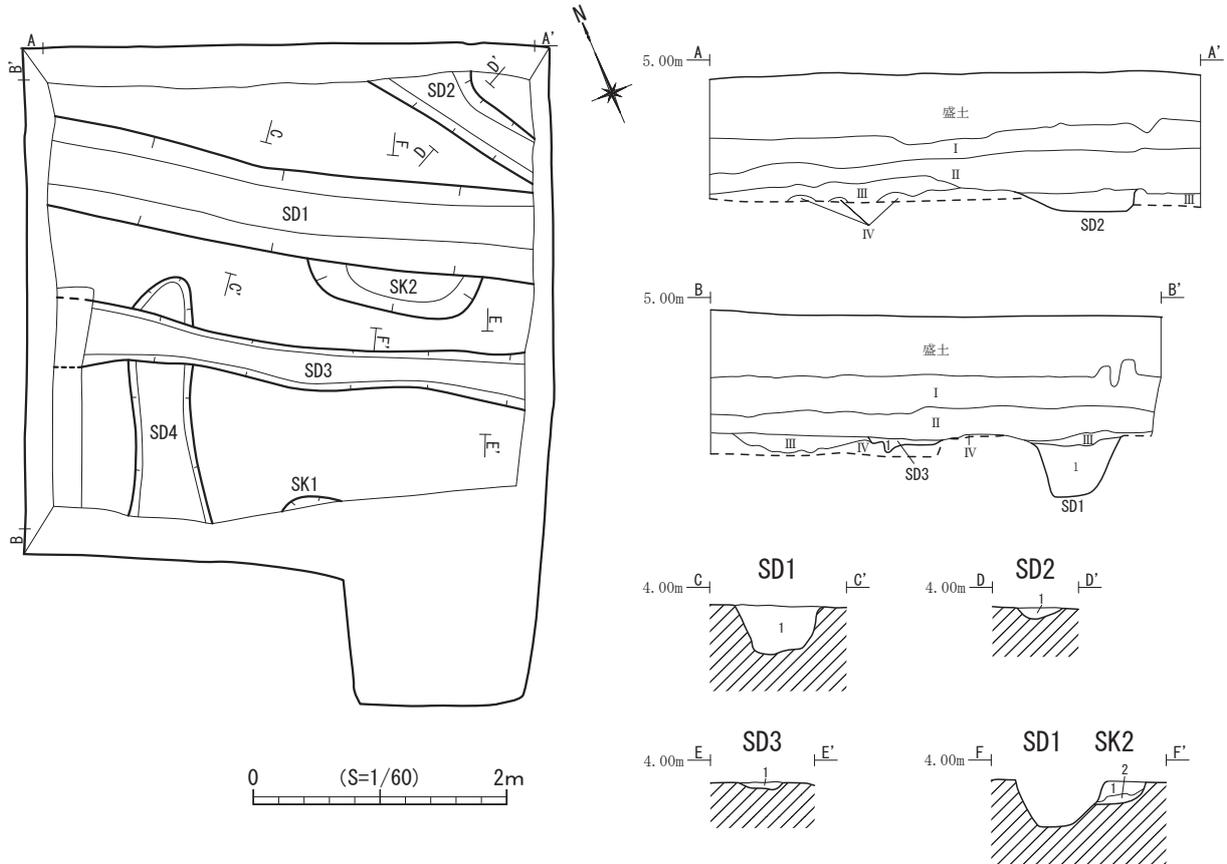
(1) 溝跡

SD1 溝跡

調査区の北部で検出した北西～南東方向の溝跡である。SK2土坑よりも新しい。検出長は3.90mで東西の調査区外へ延びる。上端幅は70～76cm、下端幅は30～37cm、深さは42cmである。断面形は逆台形を呈する。

堆積土は単層で黒褐色粘土質シルトを主体とし、黄褐色粘土質シルトブロックをわずかに含んでいる。底面で土具痕跡が2列検出されている。土具痕跡の平面形は長方形と半円形で規模は長さ約5cm、幅約10cmである。

遺物は堆積土中から土師器片と石器、石製品、鉄釘が出土しており、そのうち6点を図示した。第12図1は土師器壺である。口縁部から頸部が残存しており、二重口縁の壺で古墳時代前期の時期と考えられる。第12図2は磨石の破片の縁辺に二次加工が施されている。第12図3は砥石で、下部が欠損しており擦痕と刃つぶしと考えられる痕跡が確認された。第12図4・5は磨り石で、4は川原石を、5は円柱状の珪化木を素材としており、4は表面と裏面の両面を、5は端部を磨り面として使用している。



	層位	色調	土質	備考
基本層	I	10YR4/4 褐色	シルト	旧耕作土 (畑の耕作土)
	II	10YR4/3 におい黄褐色	シルト	炭化粒を微量に含む 砂を少量含む 酸化鉄斑を含む 畑の耕作土
	III	10YR3/2 黒褐色	シルト	下半部に地山小ブロックを含む 畑の耕作土
	IV	10YR5/6 黄褐色	粘土質シルト	地山 暗褐色シルトを微量に含む
SD1	1	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む 炭化粒を少量含む 焼土粒を微量に含む
SD2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	下半部に地山ブロックを含む 畑の耕作土 ※II層が堆積土
SD3	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	地山粒を少量含む 炭化粒を微量に含む 自然堆積
SK2	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロックを微量に含む 炭化粒を微量に含む
	2	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	地山ブロックを多量に含む

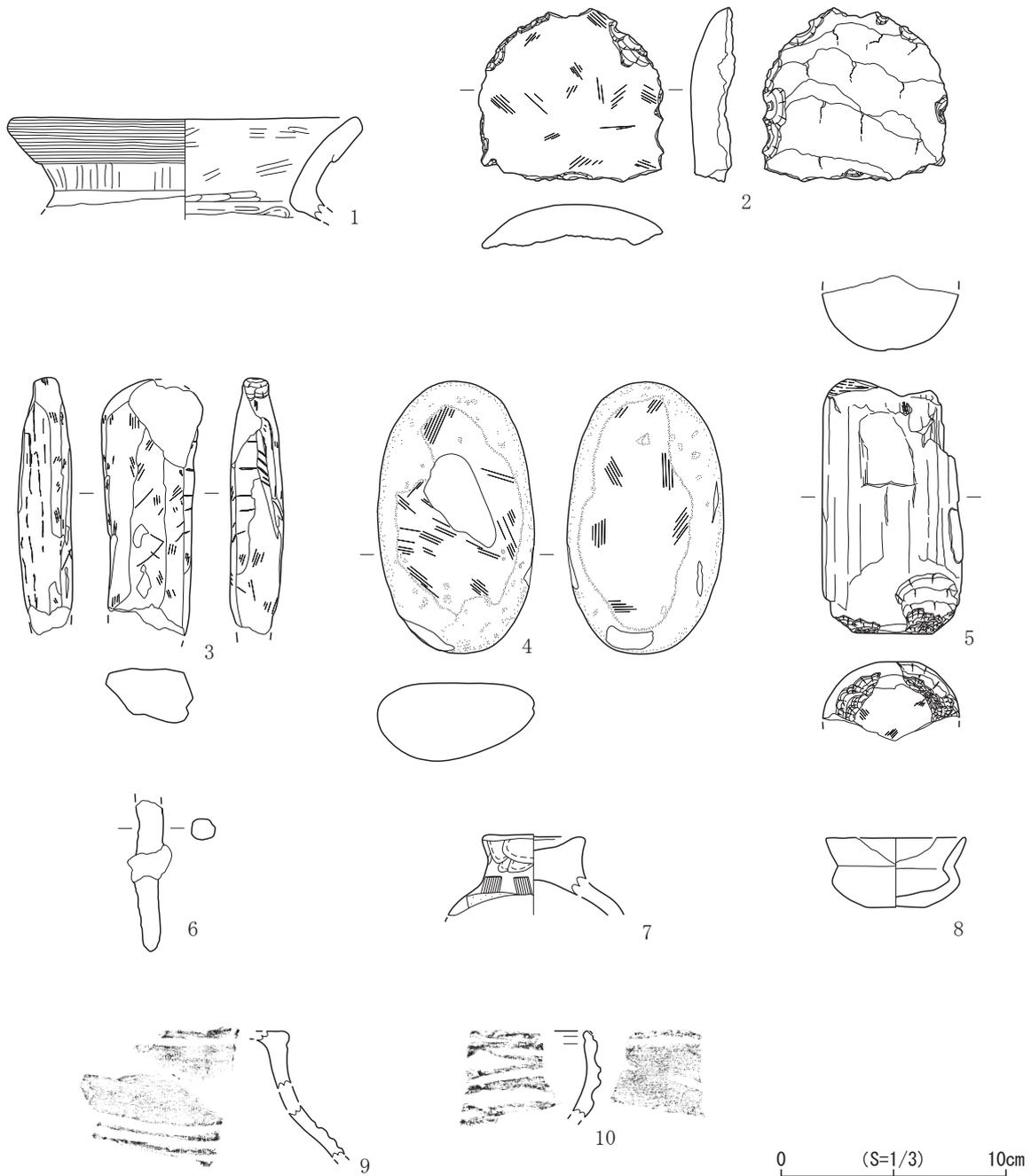
第11図 高田A遺跡第6次調査区平・断面図

SD2 溝跡

調査区の北部で検出した南北方向の溝跡である。検出長は1.50mで北と東の調査区外へ延びる。上端幅は34～48cm、下端幅は12～15cm、深さは9cmである。断面形は皿形を呈する。堆積土は基本層II層を主体とする。溝跡の底面では土木具痕跡が検出された。土木具痕跡の平面形は半円形で規模は長さ約3cm前後、幅約5cm前後である。遺物は弥生土器が出土しており、そのうち1点を図化した。第11図7は蓋で、つまみ部から体部の一部が残存している。

SD3 溝跡

調査区の中央部で検出した北西～南東方向の溝跡である。SD4溝跡より新しい。検出長は3.74mで東西の調査区外へ延びる。上端幅は32～50cm、下端幅は18～36cm、深さは5cmである。断面形は浅い逆台形を呈する。堆積土は単層で暗褐色粘土質シルトを主体とし、黄褐色粘土質シルト粒と炭化物粒を少量含む。遺物は土師器片が出土している。



図版番号	登録番号	出土遺構	種別	器種	口径・幅 (cm)	器高・長 (cm)	底径・厚 (cm)	外面	内面	特徴・備考	写真図版
1	C-1	SD1	非ロクロ土師器	壺	(15.2)	(4.6)	—	ヘラミガキ→ヨコナデ	ヘラミガキ 指オサエ	折り返し口縁 塩釜式?	5-3-1
2	K-4	SD1	礫石器	不明	幅 8.2	長さ 7.9	厚さ 1.5	磨面	剥離面	縁辺を打ち欠く 磨石破損後に再加工	5-3-2
3	K-1	SD1	石製品	砥石	幅 4.5	長さ (11.4)	厚さ 2.4			珪化木 端部欠損	5-3-3
4	K-3	SD1	礫石器	磨石	幅 7.0	長さ 12.2	厚さ 3.5	磨面 1面	磨面 1面		5-3-4
5	K-2	SD1	礫石器	磨面+敲石	幅 (6.3)	長さ 11.4	厚さ (3.5)			珪化木	5-3-5
6	N-1	SD1	鉄製品	鉄釘	幅 (1.1)	長さ (6.7)	厚さ (0.9)			頭部欠損	5-3-6
7	B-1	SD2	弥生土器		4.6	(3.7)	—	指オサエ ヘラナデ	摩滅		5-3-7
8	C-2	遺構確認面	非ロクロ土師器	ミニチュア	(6.1)	3.1	(2.6)	摩滅	摩滅	塩釜式?	5-3-8
9	B-2	遺構確認面	弥生土器	蓋	—	(5.6)	—	平行沈線文	ミガキ(研磨)	平行沈線文	5-3-9
10	B-3	表土	弥生土器	鉢	—	(3.8)	—	変形工字文	沈線		5-3-10

第12図 高田A遺跡第6次調査出土遺物

SD4 溝跡

調査区の南西部で検出した北東～南西方向の溝跡である。SD3 溝跡より古い。検出長は 1.86 m で調査区外の南に延びる。上端幅は 42～64cm、下端幅は 34～50cm、深さは 5cm である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は単層で黒褐色の粘土質シルトである。

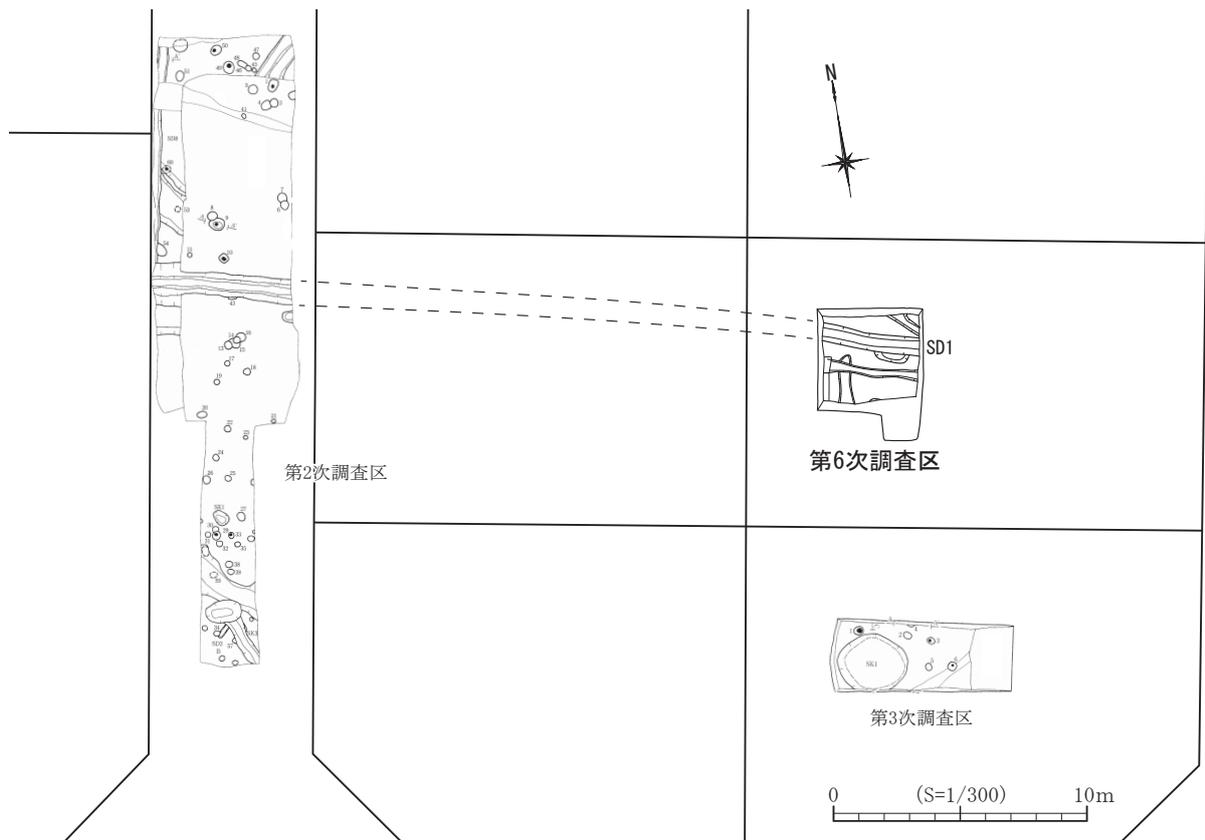
(2) 土坑

SK1 土坑

調査区の南壁際で検出した。一部のみの検出であるため平面形は不明である。規模は長軸 48cm 以上、短軸 8cm 以上、深さは 11cm 以上である。断面形は U 字形を呈する。堆積土は単層で黒褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は土師器片が出土している。

SK2 土坑

調査区の東部で検出した。SD1 溝跡と重複し、これよりも古い。平面形は北側が SD1 溝跡で壊されているが、楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.40 m、短軸 38cm 以上、深さは 20cm である。断面形は U 字形を呈する。堆積土は 2 層で黒褐色粘土質シルトを主体とし、そのうち 2 層は黄褐色粘土質シルト小ブロックを多量に含む。遺物は土師器片が出土している。



第13図 高田A遺跡第6次調査区および周辺調査区

5. まとめ

今回の調査地点は、高田 A 遺跡の南部に位置している。今回の調査地点の周辺では西側で第2次調査が、南側で第3次調査が実施されており、溝跡や土坑、ピットなどが検出され、弥生土器、土師器、須恵器などが出土している。今回の調査で検出した遺構は溝跡4条、土坑2基である。このうちSD1溝跡とSD2溝跡の底面では、掘削した際の痕跡と考えられる土木具痕跡が確認されている。溝の堆積土中から古墳時代前期（塩釜式）の土師器壺が出土しており、SD1溝跡の時期は古墳時代前期以降と考えられる。また、西側で実施された第2次調査ではSD1溝跡と同方向の溝跡（SD1溝跡）が確認されており、位置関係などから今回検出されたSD1溝跡の延長部分の可能性が考えられるが、第2次調査のSD1溝跡からはロクロ土師器などが出土しており、平安時代以降の溝跡と推定されている。他の遺構については出土遺物が少なく、年代や性格は不明である。

引用・参考文献

仙台市教育委員会 2000 『高田 B 遺跡』仙台市文化財調査報告書第242集

仙台市教育委員会 2002 「高田 A 遺跡（第2・3次調査）」『小鶴城跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第261集

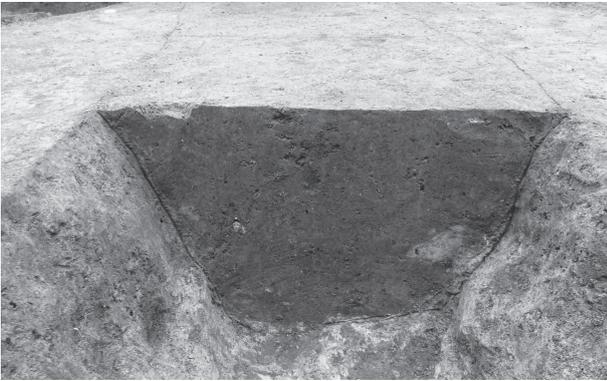
仙台市教育委員会 2005 「高田 A 遺跡第5次」『山田本町遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第287集



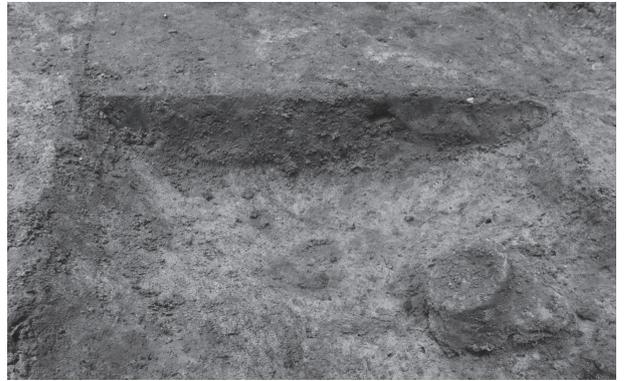
1. 調査区全景遺構検出状況（西から）
写真図版3 高田 A 遺跡第6次調査（1）



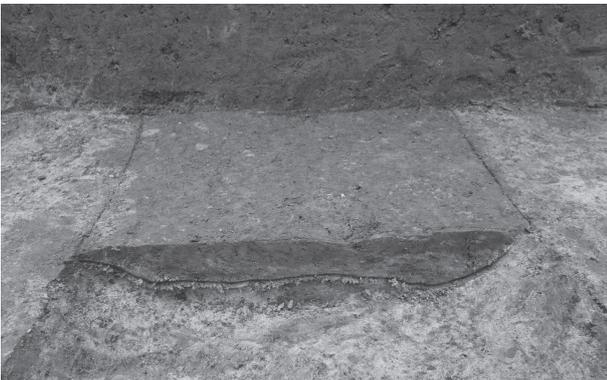
1. 遺構完掘状況（西から）



2. SD1 溝跡土層断面（西から）



3. SD2 溝跡土層断面（南から）



4. SD3 溝跡土層断面（東から）



5. SK1 溝跡土層断面（東から）

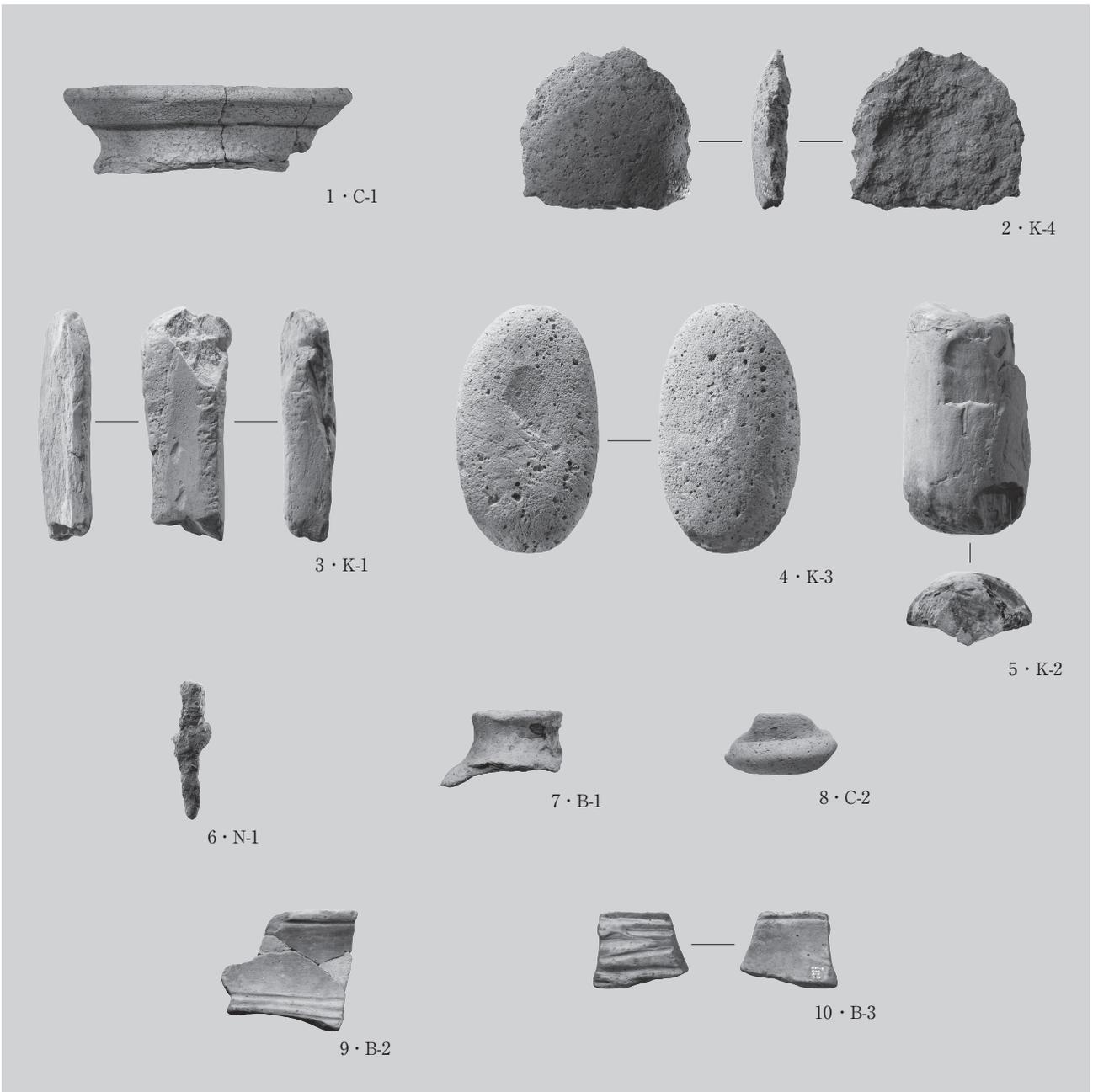
写真図版4 高田A遺跡第6次調査(2)



1. 調査区北壁土層断面（南から）



2. 調査区西壁土層断面（東から）



3. 高田 A 第 6 次調査出土遺物
写真図版 5 高田 A 遺跡第 6 次調査 (3)・出土遺物

第3節 今泉遺跡

I. 遺跡の概要

今泉遺跡は、仙台市若林区今泉2丁目に所在する。JR 仙台駅の南東約 6.5km、仙台南部道路今泉インターの北西約 500m の標高 2～4m の自然堤防上に立地し、東西約 400m、南北約 480m の規模である。文献などから須田玄蕃（すだげんば）が居住した中世の今泉城として古くから知られていた（『仙台領古城書立之覚』）が、これまで仙台市教育委員会により行われた第1次調査（1979年）、第2次調査（1981年）、第3次調査（1993年）、第4次調査（1994年）で、縄文時代後期から近世にかけての時代幅をもつことが明らかになった。

遺跡の中心部は、中世の城館である今泉城に関わる遺構群である。城館の構造は不明確であるが、南辺の水堀の一部が発見されている。また過去の航空写真や村絵図、地籍図によると城の北側には水田が帯状に連なっていることを確認することができ、これが城の北辺を画する堀の痕跡であると推定されている。堀の内部では、掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡などの遺構が数多く見つかっており、12世紀代に屋敷が成立し、南北朝時代に城館として改変・整備され、17世紀前半頃まで使われていたと推定されている。出土遺物は多彩で陶器、青磁や白磁、漆器、木製品、茶臼などの石製品、鉄鍬などの鉄製品がある。その他にも縄文時代では後期の土器が出土しており、弥生時代では、中期に墓域が形成されて、土器棺墓が5基発見されている。調査区内から弥生土器とともに、石庖丁や太型蛤刃石斧などの弥生時代を特徴づける石器も出土している。また、古墳時代前期と中期の土坑、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、近世の溝跡などの遺構も見つまっている。

II. 第14次調査

1. 調査要項

遺跡名	今泉遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01235)
調査地点	若林区区今泉2丁目 48-9、48-11、 48-12
調査期間	平成28年2月2日～2月5日
調査対象面積	建築面積 78.66㎡
調査面積	12㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 調査調整係
担当職員	主査 平間亮輔 文化財教諭 吉田真太郎 笹原惇 佐藤慶一



第14図 今泉遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成28年1月5日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成28年1月13日付 H27 教生文第 101-565 号で通知）に基づき、平成28年2月2日～5日に実施した。

建築範囲内に南北 4.0 m × 東西 3.0 m の調査区を設定し、重機により盛土および基本層 I 層を掘削した後、基本層 II 層をやや掘り下げた面（GL-0.8 m）で遺構検出作業を実施し、土坑 2 基、井戸跡 1 基、ピット 7 基を確認した。

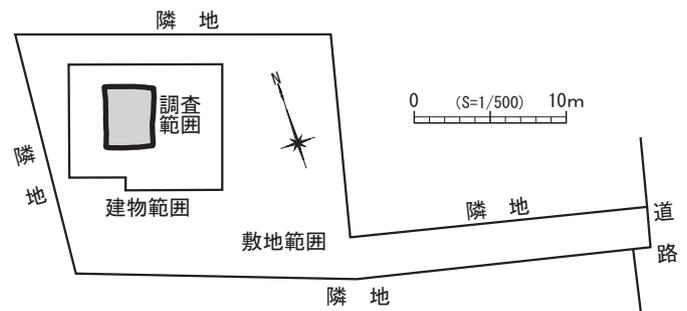


第15図 今泉遺跡第14次調査区および周辺調査

井戸跡については安全面を考慮し、遺構検出面から80cmの深さまでの掘削にとどめている。

その後、基本層Ⅲ層上面（GL-1.0m）で、溝跡1条、ピット1基を確認した。

遺構の掘削後、平面図、調査区西・東壁の土層断面図をS=1/20で作成し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。埋め戻しは2月18日に重機で締め固めを行いながら実施した。



第16図 今泉遺跡第14次調査区設定図

3. 基本層序

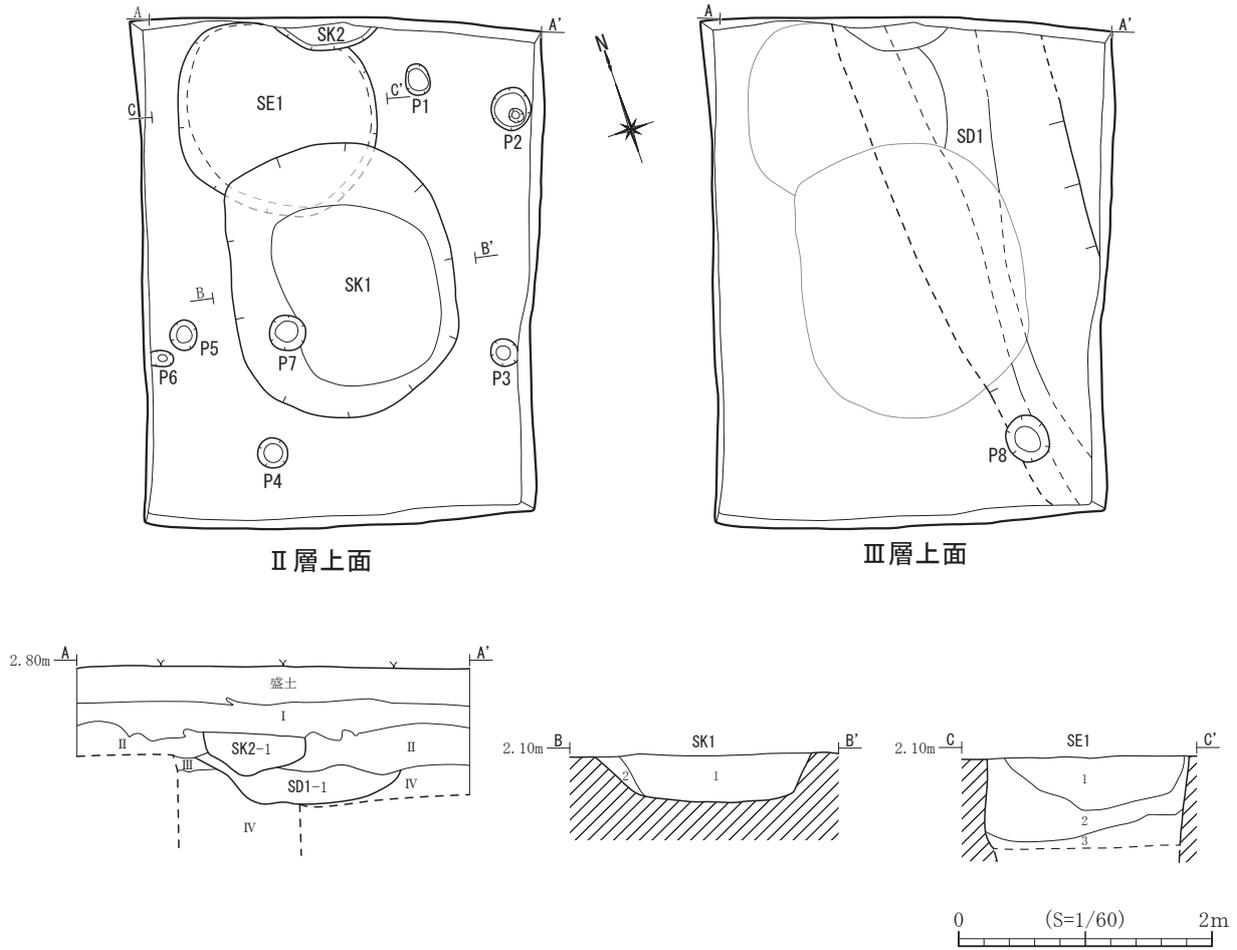
調査区内の盛土厚は約30cmであり、その下に基本層を4層確認した。今回の遺構検出面であるⅡ層上面までの深度は約55cmである。

I層：暗褐色粘土質シルト。

Ⅱ層：暗褐色粘土質シルト。褐色砂質シルトを粒状に少量含む。

Ⅲ層：黒褐色粘土。基本層Ⅳ層を粒状にやや多く含む。

Ⅳ層：にぶい黄橙砂質シルト。10YR5/8黄褐色を帯状に多量含む。



	層位	色調	土質	備考
基本層	I	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
	II	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	褐色砂質シルトを少量含む
	III	10YR3/2 黒褐色	粘土	地山土を粒状にやや多く含む
	IV	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色を帯状に多量に含む
SD1	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	地山ブロックを多量に含む
	1	10YR4/1 褐灰色	粘土	黄褐色粘土ブロック多量、黒褐色粘土ブロック少量含む
SE1	2	10YR3/1 黒褐色	粘土	酸化鉄ブロックを斑状に多量に含む
	3	7.5Y4/1 灰色	粘土	酸化鉄ブロックを斑状に多量に含む
	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄褐色粘土ブロックを多量に、黒褐色粘土ブロック少量含む
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	10YR4/2 灰黄褐色粘土ブロック・10YR5/3 にぶい黄褐色粘土ブロックの混合層
	2		粘土	
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	褐色砂質シルトブロックをやや多く含む

第17図 今泉遺跡第14次調査区平・断面図

4. 発見遺構と出土遺物

II層上面から土坑2基、井戸跡1基、ピット7基を確認した。III層上面からは溝跡1条、ピット1基を確認した。また各遺構および基本層中から土師器、金属製品、礫石器などの遺物が出土している。

i. II層上面検出遺構

(1) 土坑

SK1 土坑

調査区の中央部で検出した。平面形は不整な楕円形で、東西長1.8m、南北長2.2m、深さは40cmである。堆積土は2層に細分され、上層は灰黄褐色粘土、下層は灰黄褐色粘土ブロックとにぶい黄褐色粘土ブロックの混合である。SE1井戸跡、SD1溝跡、P7と重複し、SE1井戸跡、SD1溝跡よりも新しく、P7よりも古い。

遺物は堆積土中から環状の金属製品が出土している(第18図2)。金属製品は両縁が内側に湾曲し、薄い銅板(管

状?)を内部に抱え込むようになっている。性格や用途は不明である。

SK2 土坑

調査区の北端で検出した。部分的な検出であったため詳細は不明である。堆積土にはぶい黄褐色粘土で、褐色の砂質シルトブロックを粒状にやや多量に含んでいる。SE1 井戸跡と重複し、それよりも新しい。遺物は出土していない。

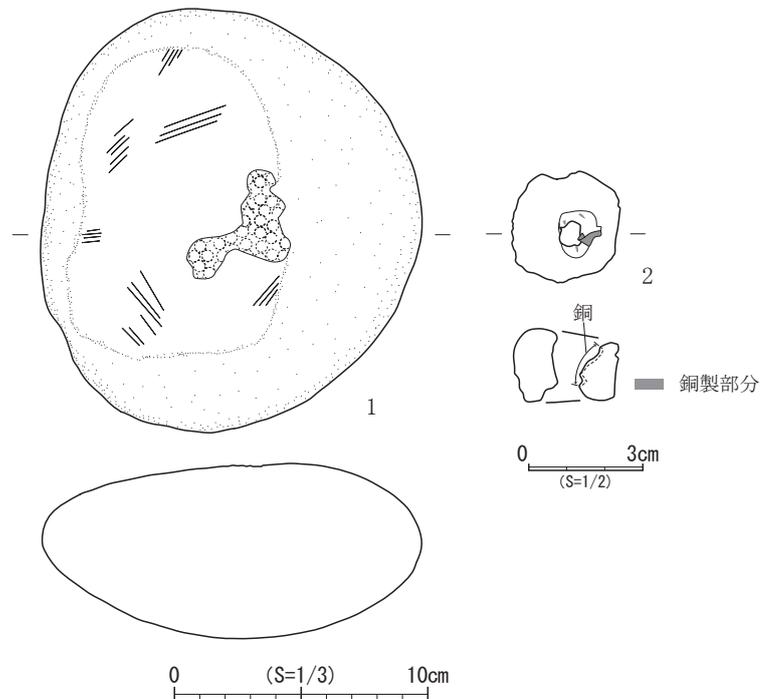
(2) 井戸跡

SE1 井戸跡

調査区の北部で検出した。平面形は円形を程すと考えられる。検出規模は東西長、南北長ともに1.6mである。安全性を考慮して遺構の完掘にまではいたらなかったが、遺構の形状から井戸跡と推定した。堆積土は3層まで確認している。SK1・2土坑、SD1溝跡、P7と重複し、SK1・2土坑、P7よりも古く、SD1溝跡より新しい。遺物は出土していない。

(3) ピット

7基のピットが検出された。直径は15～40cmで、深さは15～50cmである。堆積土は暗褐色、黒褐色、黒色の粘土質シルトもしくは粘土である。P2からは柱痕跡が確認された。またP1の底部には直径17cmの礫石器が据えられていた。また一部のピットには炭化物や褐色の粘土質シルトブロックが混入する。建物跡等を構成する組み合わせは確認されなかった。



Ⅲ層上面検出遺構

(1) 溝跡

SD1 溝跡

調査区の東側を縦断する南北方向の溝跡である。部分的な検出にとどまっているため全体の状況は明らかではないが、上端幅が1.4m、下端幅が20cm深さは30cmで、底面はほぼ平坦である。堆積土は地山ブロックを多量に含む黒褐色粘土の単層である。遺物は出土していない。

(2) ピット

ピットが1基検出された。直径は34～37cmで、深さは50cmである。堆積土は黒色の粘土である。柱痕跡は確認されなかった。

掲載番号	登録番号	出土遺構	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	特徴・備考	写真図版
18-1	K-1	P1	礫石器	凹石+磨石	16.8	15.1	厚 6.9	外面：凹面+磨面 片面のみ使用	
18-2	N-1	SK1	金属製品 (鉄+銅)	金具	3.0	2.8	厚 1.9 孔 0.6	リング状 (環状) 外側が鉄金具、 内側が銅製金具 入れ子状 性格・用途不明	

第18図 今泉遺跡第14次調査出土遺物

5. まとめ

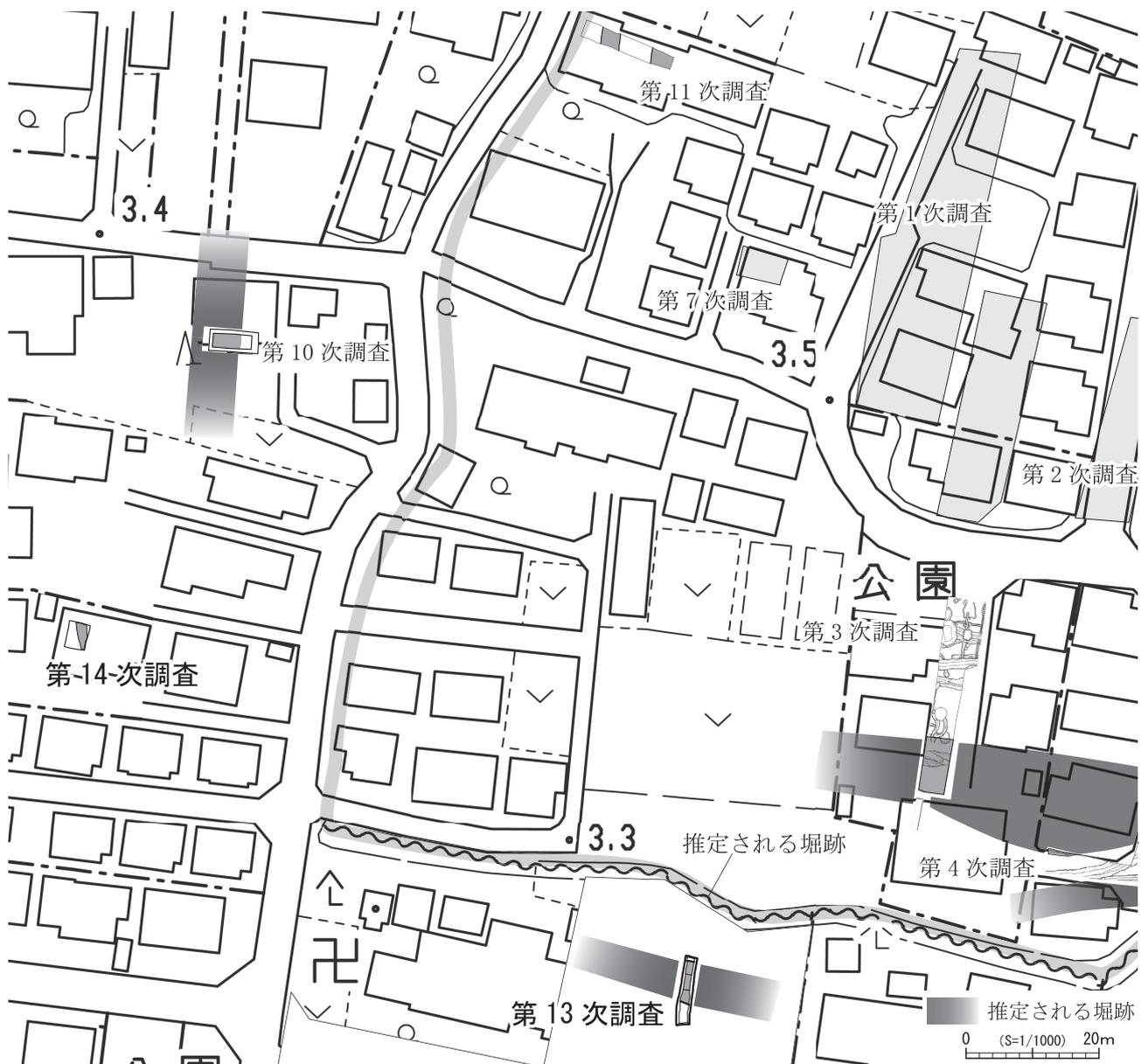
今回の調査地点は今泉遺跡の南西側に位置する。Ⅱ層上面から土坑2基、井戸跡1基、ピット7基、Ⅲ層上面から溝跡1条、ピット1基が検出されたが、これらの遺構の時期は不明である。これまでの発掘調査により、現在も残る地割りに沿って中世の城館の堀跡が巡っていたことが判明している。今回Ⅲ層上面で検出された南北方向の溝跡は、規模は幅約1.4m、深さ約30cmで、区割りに推定される堀跡とほぼ平行していることから、堀と同時期の可能性が考えられ、堀跡の外側の区画施設であるものと考えられる。

引用・参考文献

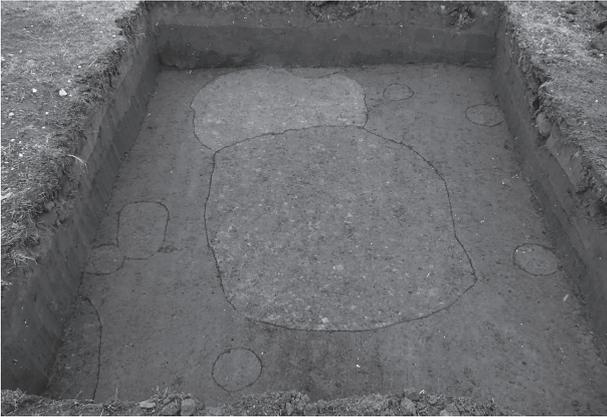
仙台市教育委員会 1983 『今泉城』 仙台市文化財調査報告書第58集

仙台市史編さん委員会 2006 『今泉城』『仙台市史 特別編7 城館』

仙台市教育委員会 2016 「今泉遺跡第10次、第11次」『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』 仙台市文化財調査報告書第448集



第19図 今泉遺跡第14次調査区とその周辺の遺構



1. 遺構検出状況 (南から)



2. 遺構完掘状況 (南から)



3. SK1 土坑土層断面 (南東から)



4. SK1 土坑完掘状況 (南から)



5. SD1 溝跡検出状況 (西から)



6. 調査区北壁土層断面 (南から)



7. 出土遺物

写真図版 6 今泉遺跡第14次調査・出土遺物

第3章 太白区の調査

第1節 大野田官衙遺跡

I. 遺跡の概要

大野田官衙遺跡は、宮城県仙台市太白区大野田に所在する。JR 仙台駅の南約 5.2km の、名取川と筑川に挟まれた標高約 10～12m の自然堤防上に立地する。遺跡の範囲は、東西約 190m、南北約 260m である。

周辺には元袋遺跡、袋前遺跡、六反田遺跡、大野田古墳群、王ノ壇遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、伊古田 B 遺跡などが隣接して分布し、平成 25 年度まで富沢駅周辺土地区画整理事業に伴い、継続して発掘調査が行われた。これまでの調査で、縄文時代、古墳時代、古代の集落跡が確認され、さらに古墳時代の石棺墓や木棺墓、古墳、平安時代の水田跡、近世の屋敷跡等も調査されている。

大野田官衙遺跡は、富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査の中で発見された官衙遺跡である。平成 21 年度には、官衙関連遺構が確認されている範囲が「大野田官衙遺跡」として登録された。これまでの調査で、6 棟の掘立柱建物跡とそれを方形に囲む溝跡が確認されている。発見された掘立柱建物跡は、概ね真北を基準とする南北棟で 2 間×4 間の総柱の掘立柱建物跡と、2 間×10 間の大型の掘立柱建物が東西に向かい合って配置されている。その最も北側の建物の間の東西中軸線上に、東西 2 間の建物が配置されている。

大野田官衙関連遺構の遺物出土量は比較的少ないが、遺跡の位置関係や建物の基準が真北で共通することから、7 世紀末～8 世紀初頭の陸奥国府と推定される郡山遺跡Ⅱ期官衙との関係性が指摘されている。また、その廃絶時期については、出土遺物の検討から 8 世紀初頭～中葉と考えられている。

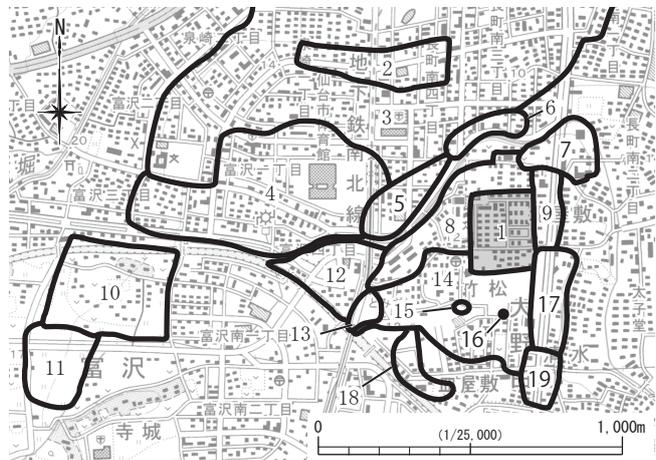
II. 第 20 次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田官衙遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01566)
調査地点	太白区大野田字袋前 2-1、3-1、 27-6、水路、堤の各一部 (仮換地 6-2 街区 2 画地)
調査期間	平成 28 年 2 月 3 日
調査対象面積	建築面積 65.78㎡
調査面積	21.4㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課 整備活用係
担当職員	主事 及川 謙作

2. 調査に至る経過と調査方法

調査は、平成 27 年 11 月 30 日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野田官衙遺跡	集落跡・官衙跡	自然堤防	縄文～中世
2	泉崎浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～平安・近世
3	富沢遺跡	包含地・水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世
4	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世
5	下ノ内浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文～中世
6	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳～平安
7	元袋遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	弥生・古代～近世
8	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～古代・近世
9	大野田遺跡	祭祀・集落跡	自然堤防	縄文～古代
10	富沢館跡	城館跡	自然堤防	中世
11	鍛冶屋敷前遺跡	集落跡	自然堤防	平安
12	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～中世
13	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古墳～古代
14	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳
15	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳
16	鳥居塚古墳	円墳	自然堤防	古墳
17	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文～中世
18	伊古田 B 遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	古墳～古代
19	皿屋敷遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	古代～中世

第 20 図 大野田官衙遺跡の位置と周辺の遺跡

成27年12月10日付けH27教生文第101-514号で回答)に基づき、平成28年2月3日に実施した。建築範囲内に南北5.0m×東西4.0mの調査区を設定し、重機により盛土層を除去する予定であったが、掘削した結果盛土層の厚さが150cm以上あったため、安全対策のためGL-1.4m付近で段を設け、最終的には南北2.1m×東西1.8mの範囲で掘削を行い、遺構検出を行った。

遺構確認作業は基本層V層上面 (GL-2.0m) で実施し、溝跡1条 (SD1) を確認した。掘削深度の制限から平面的な確認にとどめている。

精査終了後、写真撮影と平面図 (S=1/40) および調査区東壁断面図 (S=1/20) を作成した。埋め戻しは同日中に重機で締め固めを行いながら実施した。

3. 基本層序

調査区内の盛土厚は160cmで、その直下に最近まで使用されていたと思われる水路に伴う攪乱と基本層を2層確認した。なお、当該調査区の周辺では富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う調査が広範囲に行われているので、今回はそれらの基本層序を使用した。当調査区ではそのI~III層が欠落している。今回の遺構検出面あるV層上面までの深度は185cmである。IV層：黒褐色粘土質シルト。SD1溝跡に落ち込む形で見つかった基本層である。

V層：暗褐色粘土。上面が遺構検出面である。

4. 発見遺構と出土遺物

V層上面で溝跡1条を確認した。遺物は出土していない。

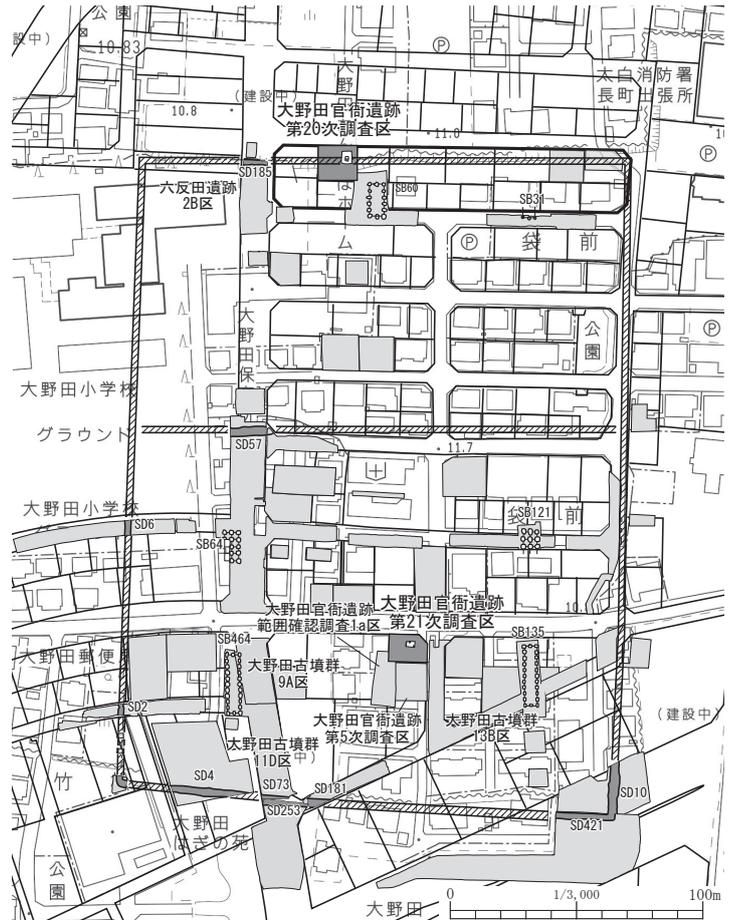
(1) 溝跡

SD1 溝跡

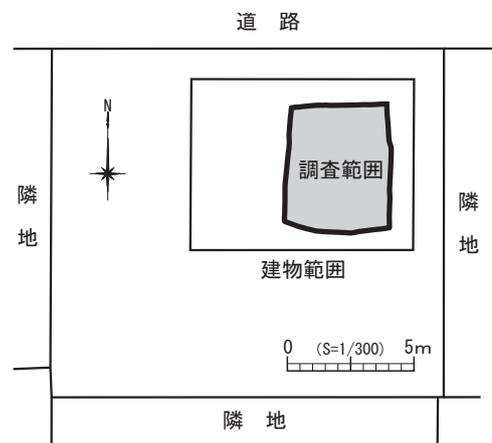
北側の肩部分を検出したのみであるので規模は不明であるが、東西方向の溝跡である。幅は85cm以上である。酸化鉄粒と細砂を含む基本層IV層が溝跡の最上層に堆積している。

5. まとめ

今回の調査で検出した遺構は溝跡1条である。部分的な検出であり、遺構の掘り込みを行わなかったため詳細は不明であるが、近隣の六反田遺跡2B区で見つかったSD185溝跡や第19次調査区で見つかったSD2溝跡の延長線

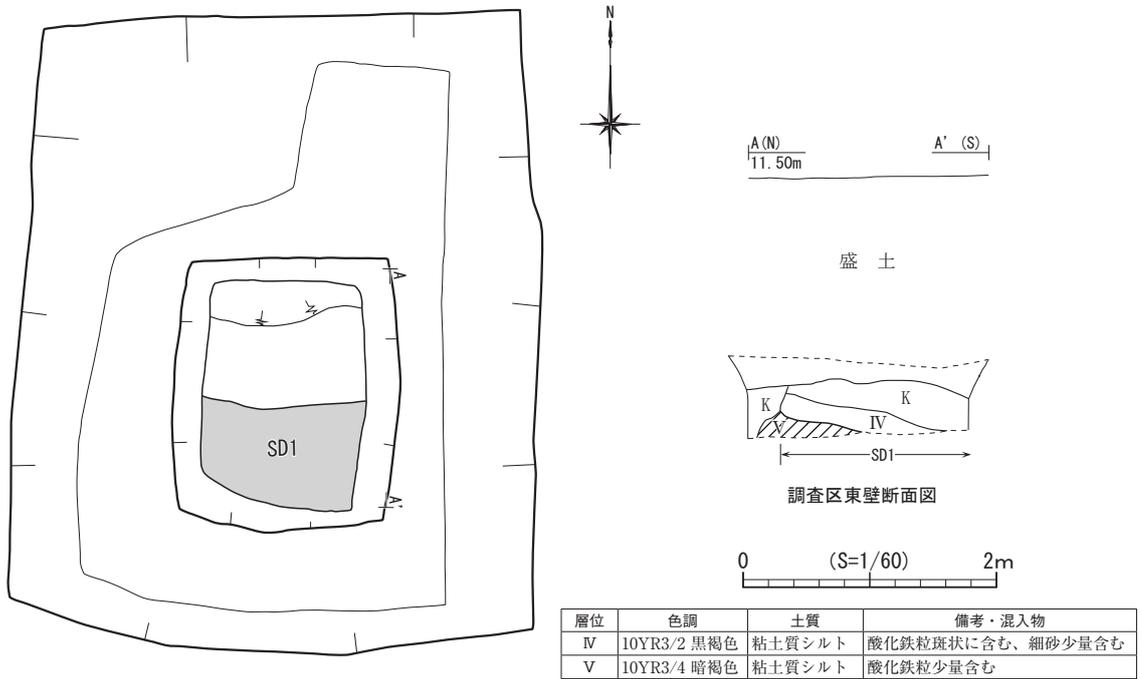


第21図 大野田官衙遺跡第20・21次調査区位置図

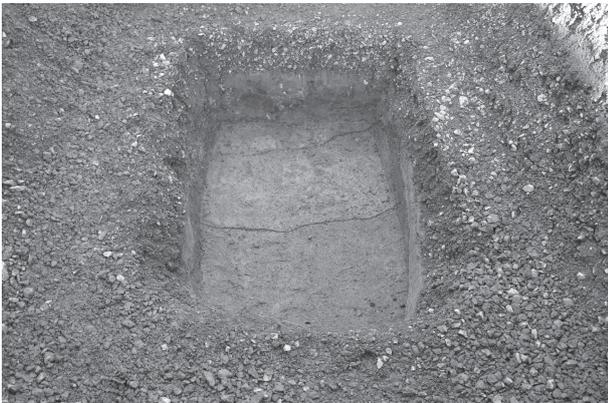


第22図 大野田官衙遺跡第20次調査区設置図

上に位置し、V層上面で検出され、堆積土中に基本層IV層が落ち込むことが確認されたことから、大野田官衙の北辺の溝跡であると考えられる。



第23図 大野田官衙遺跡第20次調査区平・断面図



1. 遺構検出状況（南から）



2. 調査区東壁土層断面（西から）



3. 調査区東壁土層断面（西から）



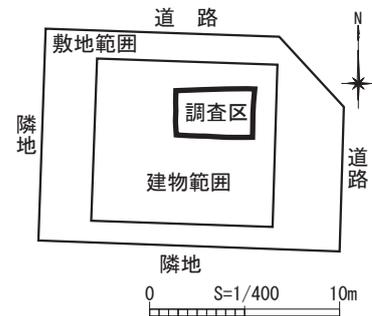
4. 遺構検出状況（北から）

写真図版7 大野田官衙遺跡第20次調査

Ⅲ. 第21次調査

1. 調査要項

遺跡名	大野田官衙遺跡(宮城県遺跡登録番号 01566)
調査地点	仙台市太白区大野田5丁目19-1 (仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業地内16街区2画地)
調査期間	平成28年6月27日
調査対象面積	建築面積78.50㎡
調査面積	10㎡
調査原因	個人住宅の建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 庄子裕美 文化財教諭 吉田真太郎



第24図 大野田官衙遺跡
第21次調査区設定図

2. 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は平成28年5月24日付で申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成28年5月30日付H28教生文第101-128号で通知)に基づき実施した。調査は平成28年6月27日に着手した。建築範囲内に2.5×4mの調査区を設定し、重機により盛土と基本層Ⅳ層の掘削を行い、GL-0.9mで基本層Ⅴ層を検出し、遺構確認を行った。その結果、溝跡2条、ピット1基を検出した。また適宜、平面図(S=1/40)、断面図(S=1/20)を作成し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

3. 基本層序

調査区内の盛土の厚さは60～70cmで、盛土直下で確認された旧耕作土の層厚は約10cmである。盛土より下位で基本層を3層確認した。今回の調査における遺構検出面である基本層Ⅴ層までの掘削深度は90cmである。なお各基本層は富沢駅周辺調査の際の基本層にそれぞれ対応する。

I層：下層に酸化鉄が集積している。宅地造成前の水田耕作土。

Ⅳ層：暗褐色粘土で、層厚は10～30cmである。にぶい黄褐色粘土粒をやや多く含む。炭化物をやや多く含む。層下面に凹凸がある。

Ⅴ層：褐色粘土で、層厚は15cm以上である。にぶい黄褐色粘土粒をやや多く含む。炭化物を微量に含む。

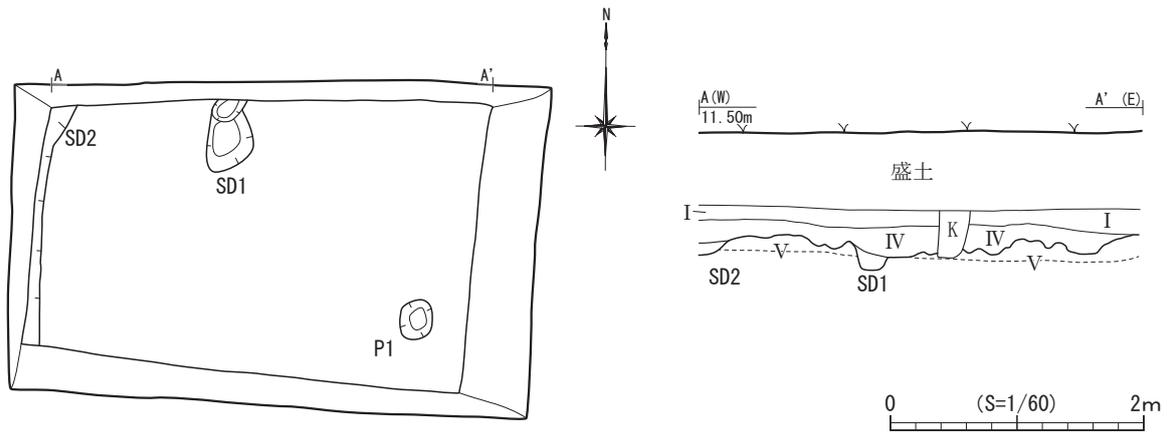
4. 発見遺構と出土遺物

今回の調査ではⅤ層上面で溝跡2条、ピット1基を検出した。また、溝跡から土師器の小片が出土した。

(1) 溝跡

SD1 溝跡

調査区の北部で検出した南北方向の溝跡である。検出長は約60cmで北側の調査区外へ延びる。上端幅は25～40cm、下端幅は5～20cm、深さは15cmである。断面形状は逆台形を呈する。堆積土は単層で基本層Ⅳ層を主体とする。遺物は土師器の小片が出土した。



遺構名	層位	色調	土質	備考
基本層	I	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	碎石を含む 区画整理前の耕作土
	IV	10YR3/3 暗褐色	粘土	炭化物、にぶい黄褐色粘土ブロックやや多量に含む
	V	10YR4/6 褐色	粘土質シルト	炭化粒微量に含む、にぶい黄褐色粘土粒多量に含む

遺構名	層位	色調	土質	備考
SD1	I	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層ブロック主体
SD2	I	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層ブロック主体

第25図 大野田官衙遺跡第21次調査区平・断面図

SD2 溝跡

調査区西壁際で検出した南北方向の溝跡である。検出長は約2mで、南北の調査区外へ延びる。溝跡の東壁部のみ検出された。上端幅は20cm以上、深さは5cmである。断面形状は皿形を呈すると考えられる。堆積土は単層で基本層IV層を主体とする。遺物は出土していない。遺構の規模などから小溝状遺構であると考えられる。

(2) ピット

調査区の東部で1基検出した。径30cm、深さは21cmである。堆積土は暗褐色粘土の単層で、黒褐色粘土粒とにぶい黄褐色粘土粒をやや多く含む。

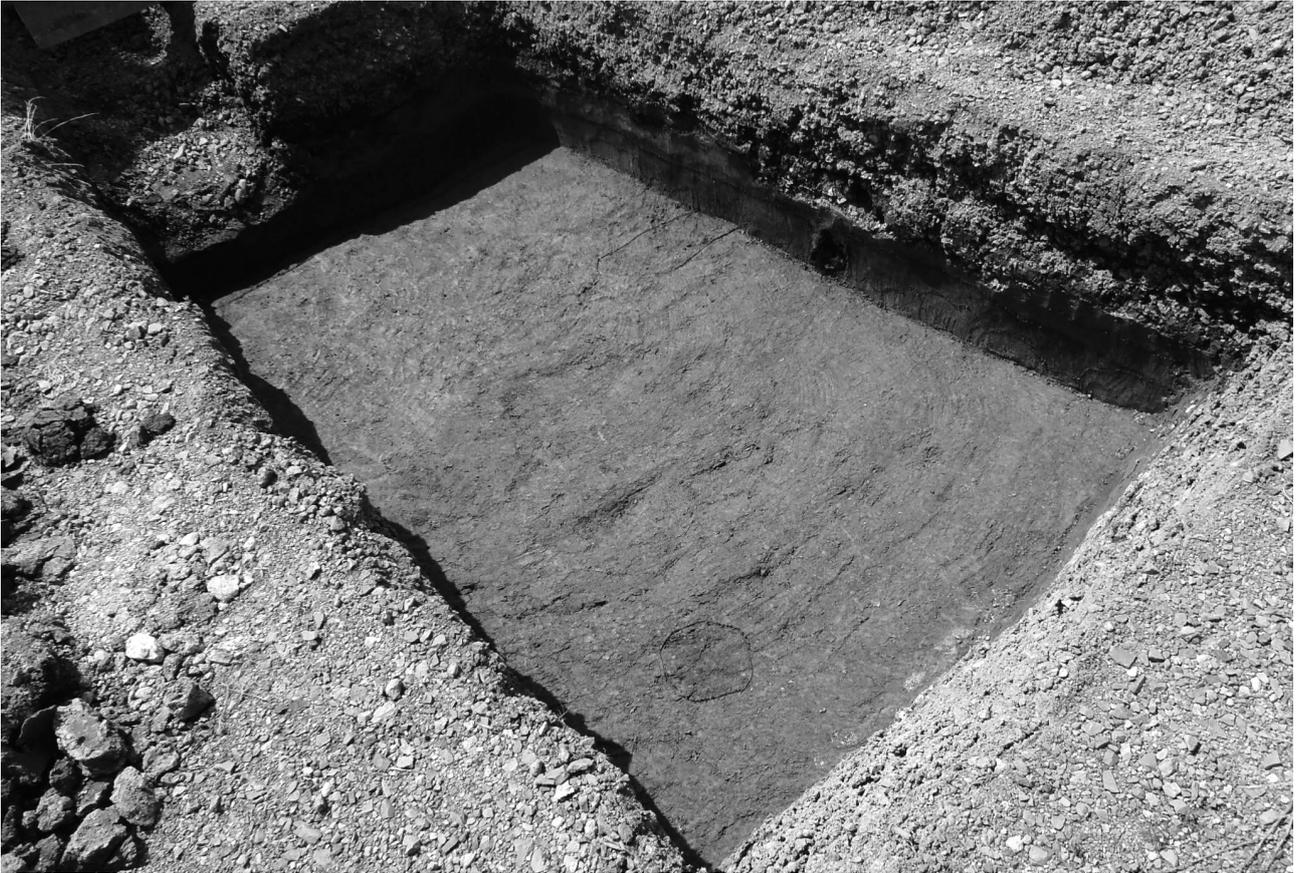
5. まとめ

今回の調査地点は、大野田官衙遺跡の南部に位置し、大野田古墳群9A区と11D区で検出されたSB464掘立柱建物跡と、大野田古墳群13B区と第15次調査区で検出されたSB135掘立柱建物跡の中間地点に位置する。今回の調査区の基本層V層上面で、溝跡2条とピット1基を検出した。遺物はSD1溝跡から土師器の小片が出土している。SD1・2溝跡は遺構の規模や堆積土の状況から当該区内で多く検出されている小溝状遺構群の一部と考えられる。

今回の調査では官衙に関連する遺構は検出されなかった。当該調査区の西側の平成21年度に実施された官衙関連施設の範囲確認調査区と、南側の平成22年に実施された大野田官衙遺跡第5次調査区でも官衙に関連する遺構は検出されなかったことから当該地の周辺は空地であったものと考えられる。

引用・参考文献

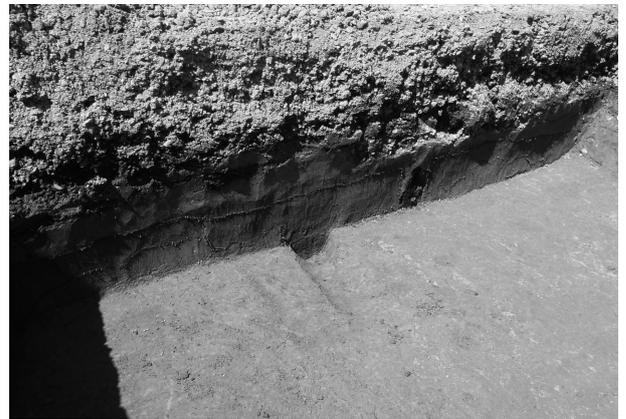
- 仙台市教育委員会 2010 「大野田官衙遺跡」『郡山遺跡30—平成21年度発掘調査概報郡山遺跡・大野田官衙遺跡—』
仙台市文化財調査報告書第373集
- 仙台市教育委員会 2011 「大野田官衙遺跡第3～6次調査」『仙台平野の遺跡群21—平成22年度発掘調査報告書—』
仙台市文化財調査報告書第392集
- 集仙台市教育委員会 2011 『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第390集



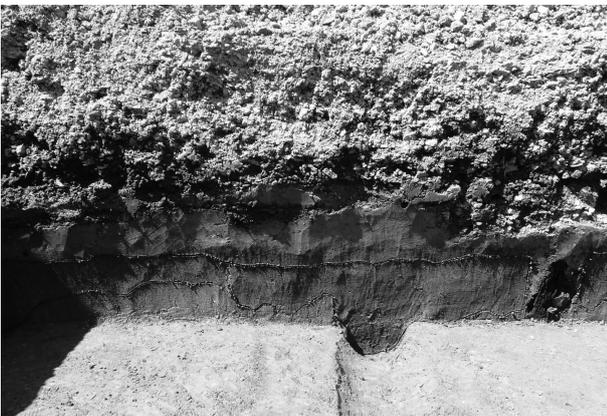
1. 遺構検出状況（南東から）



2. 遺構完掘状況（東から）



3. 調査区北壁土層断面（南西から）

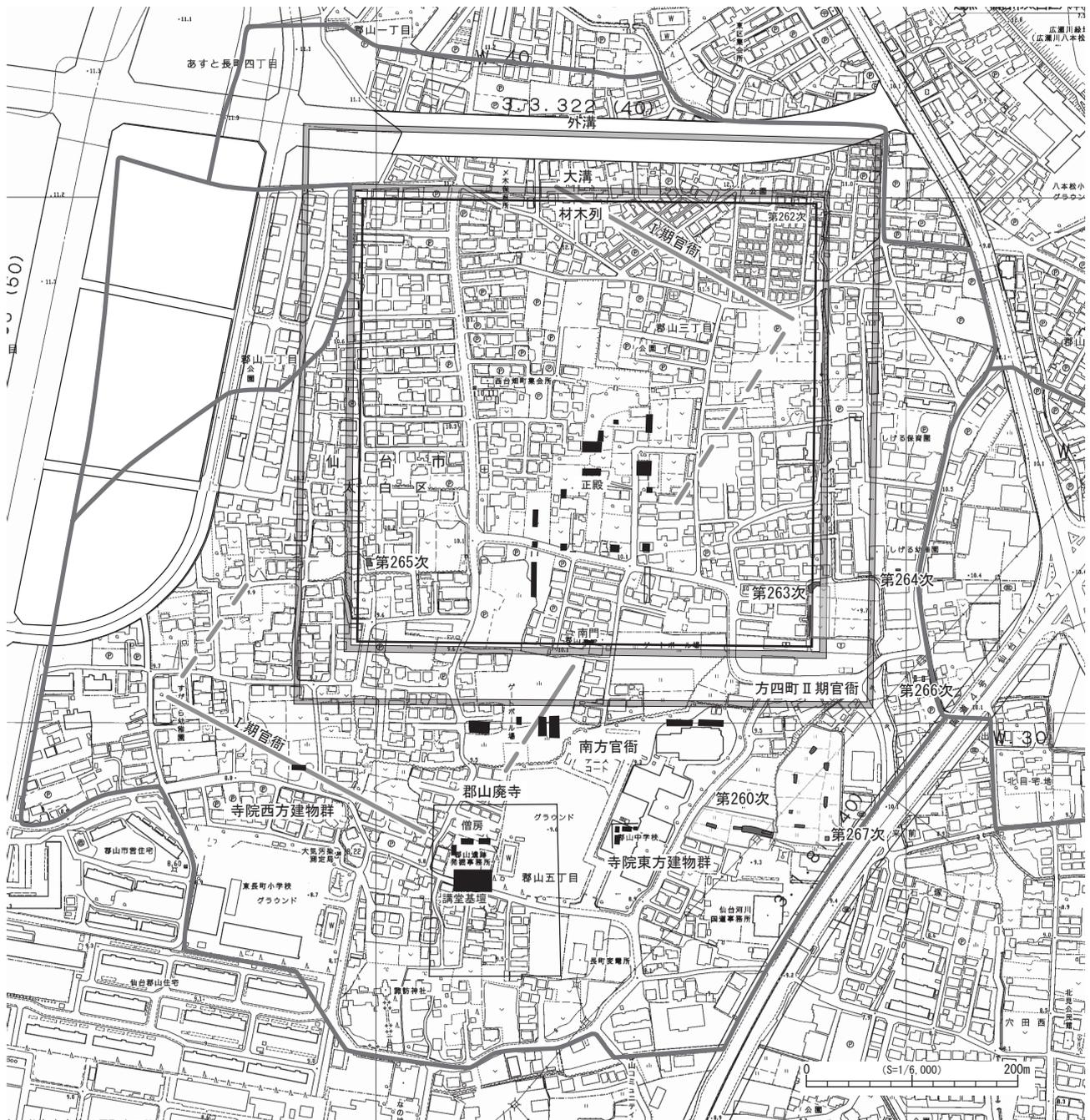


4. SD1 溝跡土層断面（南から）



5. P1 土層断面（北から）

第4章 郡山遺跡の調査



遺跡名・調査回数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡 第260次	郡山遺跡南東部	216.84㎡	平成28年4月18日～7月7日	宅地造成	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第262次	Ⅱ期官衙北東部	10.75㎡	平成28年1月27日～2月2日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第263次	Ⅱ期官衙南東部	107.60㎡	平成28年6月6日～7月22日	宅地造成	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第264次	郡山遺跡東部	4㎡	平成28年6月13日	宅地造成	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第265次	Ⅱ期官衙西部	23㎡	平成28年7月1日～7月22日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第266次	郡山遺跡東部	16㎡	平成28年12月12日	長屋住宅建築	開発に伴う事前調査
郡山遺跡 第267次	郡山遺跡南東部	12㎡	平成29年1月10日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査

第26図 郡山遺跡調査区位置図

第5章 総括

I. 南小泉遺跡第79次調査

今回の調査地点は南小泉遺跡の北西部に位置する。今回の調査では土坑1基、井戸跡1基、ピット7基を検出した。遺構の年代については、出土遺物の様相からSK1が古墳時代中期以降、SE1が17世紀以降であると考えられる。今回の調査地点はこれまで遺構の検出例が少ない地域であり、今回の調査により古墳時代中期の遺構群が遺跡の北東側にさらに広がることが判明した。また弥生時代中期と考えられる土器も出土した。

II. 高田A遺跡第6次調査

今回の調査地点は遺跡の中央部に位置する。今回の調査では、溝跡4条、土坑2基を検出した。遺物は古墳時代の前期埴輪式の土師器壺のほか、弥生土器、円礫や珪化木を使用した磨石などが出土している。今回の調査地点の西側の、平成13年度に実施された第2次調査では、縄文時代から平安時代までの遺構、遺物が発見されている。平安時代の土師器が出土したSD1溝跡が、今回の調査で見つかったSD1溝跡の延長線上に位置しており、同一の遺構である可能性がある。

III. 今泉遺跡第14次調査

今回の調査地点は遺跡の南西側に位置する。今回の調査では遺構検出面を2面確認し、上面のⅡ層からは土坑2基、井戸跡1基、ピット7基を検出し、Ⅲ層上面から南北方向の溝跡1条、ピット1基を検出した。Ⅲ層上面で検出された溝跡は今泉城の堀跡の区画とも平行することから、城の南西側を区画する溝跡の一部であると考えられる。

IV. 大野田官衙遺跡第20次調査

今回の調査地点は大野田官衙遺跡の北辺部分に位置する。今回の調査では東西方向の溝跡を1条確認した。この溝跡は近隣の調査区で検出されている官衙を区画する溝跡の延長部分に位置しており、官衙の北辺を区画する溝跡であると考えられる。

V. 大野田官衙遺跡第21次調査

今回の調査地点は大野田官衙遺跡の南側に位置する。今回の調査では南北方向の小溝状遺構群を構成すると考えられる溝跡2条とピットが1基検出されたが、官衙に関連する遺構は検出されなかった。

VI. 郡山遺跡

郡山遺跡においては、今年度7件の個人住宅の建築等に伴う発掘調査を実施した。詳細については仙台市文化財調査報告書第460集「郡山遺跡37」に記載している。

報告書抄録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん							
書名	仙台平野の遺跡群							
副書名	平成 28 年度個人住宅他国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	27							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 459 集							
編著者名	及川謙作 佐藤洋 庄子裕美							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒 980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5-12 仙台市役所 上杉分庁舎 10 階 TEL：022-214-8894							
発行年月日	平成 29 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
	要約							
南小泉遺跡 (79 次)	仙台市若林区 遠見塚二丁目	4100	01021	38° 14' 25"	140° 54' 56"	2016.2.15 ~ 2016.2.18	12㎡	記録保存 (個人住宅新築)
	集落跡・屋敷跡	弥生～近世		土坑・井戸跡		土師器・陶器		
	土坑、井戸跡、ピット 7 基を検出した。土坑から土師器と弥生土器が、が井戸跡から近世陶器が出土した。							
高田 A 遺跡 (6 次)	仙台市若林区 上飯田 3 丁目	4100	1256	38° 13' 11"	140° 55' 7"	2015.6.4 ~ 2015.6.9	12㎡	記録保存 (個人住宅新築)
	集落跡	縄文～古代		溝跡・土坑		弥生土器・土師器・石器		
	溝跡 4 条、土坑 2 基を検出した。遺物は弥生土器、土師器、磨石が出土した。							
今泉遺跡 (14 次)	仙台市若林区今泉 2 丁目	4100	01235	38° 12' 49"	140° 55' 41"	2016.2.2 ~ 2016.2.5	12㎡	記録保存 (個人住宅新築)
	集落跡・城館跡・包含地	縄文～近世		土坑・井戸跡・溝跡		金属製品・磨石		
	土坑 2 基、井戸跡 1 基、溝跡 1 条、ピット 8 基を検出した。							
大野田官衙遺跡 (20 次)	仙台市太白区富沢駅周辺 土地区画整理地	4100	01361	38° 13' 3"	140° 52' 33"	2016.2.3	21.4㎡	記録保存 (個人住宅新築)
	官衙跡	奈良・平安		溝跡		なし		
	官衙の北辺を区画する溝跡を 1 条検出した。							
大野田官衙遺跡 (21 次)	仙台市太白区富沢駅周辺 土地区画整理地	4100	01361	38° 12' 57"	140° 52' 34"	2016.6.27	12㎡	記録保存 (個人住宅新築)
	官衙跡	奈良・平安		溝跡、ピット		土師器		
	小溝状遺構 2 条とピットを 1 基検出したが、官衙に関連する遺構は検出されなかった。							

仙台市文化財調査報告書第459集

仙台平野の遺跡群27

平成28年度個人住宅他
国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書

2017年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区上杉1丁目5-12
仙台市役所上杉分庁舎10階
文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

仙台市宮城野区苦竹三丁目1-14
TEL 022 (231) 2245[㊞]
